

施設アセスメントシート

(建物等評価編)

庁舎等(知事部局)

静岡県

目 次

総合研修所もくせい会館	1
下田総合庁舎	3
熱海総合庁舎	5
東部総合庁舎	7
富士総合庁舎	9
静岡総合庁舎	11
藤枝総合庁舎	13
中遠総合庁舎	15
浜松総合庁舎	17
本庁舎	19
田町文庫	21
消防学校	23
環境放射線監視センター	25
環境放射線監視センター職員公舎	27
地震防災センター	29
原子力広報研修施設	31
県立美術館	33
沼津労政会館	35
勤労者総合会館（県分）	37
浜松労政会館	39
コンベンションアーツセンター	41
舞台芸術公園	44
猪之頭観光施設	46
達磨山観光施設	48
聖平小屋	50
田貫湖キャンプ場	52
男女共同参画センター	54
環境衛生科学研究所	56
昭和の森	58
賀茂健康福祉センター松崎保健支援室	60
東部健康福祉センター一時保護所	62
御殿場健康福祉センター 御殿場合同庁舎	64
富士健康福祉センター富士宮分庁舎	66
中部健康福祉センター岡出山庁舎	68
西部健康福祉センター掛川支所	70
西部健康福祉センター浜名分庁舎	72
東部看護専門学校	74
総合社会福祉会館	76
総合健康センター	78
中部健康福祉センター一時保護所	80
旧こども家庭相談センター一時保護所	82
吉原林間学園	84

三方原学園	86
富士見学園	88
磐田学園	90
浜松学園	92
婦人保護施設清流荘	94
川奈臨海学園	96
児童サテライトホーム	98
総合社会福祉施設あしたか太陽の丘	100
静岡医療福祉センター（福祉エリア）	102
動物管理指導センター	104
沼津工業技術支援センター	106
沼津インキュベートセンター	108
富士工業技術支援センター	110
富士インキュベートセンター	112
工業技術研究所	114
浜松工業技術支援センター	116
浜松インキュベートセンター	118
産業経済会館	120
浜松内陸コンテナ基地	122
沼津技術専門校	124
清水技術専門校	126
浜松技術専門校	128
あしたか職業訓練校	130
東部家畜保健衛生所	132
東部農林事務所きのこ総合センター	134
富士農林事務所育種場	136
県民の森	138
中部家畜保健衛生所	140
西部家畜保健衛生所	142
北遠総合庁舎	144
森林公園	146
県立森林公園森の家	148
県立森林公園ビジターセンター	150
天城育成放牧場	152
天城哺乳場	154
温水利用研究センター	156
温水利用研究センター沼津分場	158
水産技術研究所沼津分室	160
漁業高等学園	162
農林大学校	164
農林技術研究所	166
農林技術研究所加茂圃場	168
265 農技研伊豆わさび研究拠点	170

農林技術研究所三ヶ野圃場	172
農林技術研究所伊豆農業研究センター	174
茶業研究センター	176
果樹研究センター	178
果樹研究センター落葉果樹研究拠点	180
畜産技術研究所	182
畜産技術研究所	184
中小家畜研究センター	186
森林・林業研究センター	188
農林大学校林業分校	190
水産技術研究所	192
水産技術研究所伊豆分場	194
水産技術研究所富士養鱒場	196
水産技術研究所浜名湖分場	198
水産技術研究所駿河湾深層水水産利用施設	200
水産技術研究所富士養鱒場	202
水産技術研究所富士養鱒場貸付財産	204
下田土木事務所松崎支所	206
熱海土木事務所伊東支所	208
熱海土木事務所ダム監督員宿舎	210
沼津土木事務所修善寺支所	212
沼津土木事務所土肥支所	214
富士土木事務所富士宮分庁舎	216
静岡土木事務所河川事務所	218
島田土木事務所川根支所	220
島田土木事務所	222
袋井土木事務所	224
袋井土木事務所掛川支所	226
浜松土木事務所新居分庁舎	228
旧天竜土木事務所佐久間支所	230
旧天竜土木事務所春野支所	232
田子の浦港管理事務所	234
清水港管理局	236
清水港湾交流センター	238
御前崎港管理事務所	240
静岡県建設技術監理センター	242
プラサヴェルデ	244
草薙総合運動場	246
遠州灘海浜公園	248
愛鷹広域公園	250
吉田公園	252
富士山こどもの国	254
小笠山総合運動公園	256

浜名湖ガーデンパーク	258
緑町車庫	260
大仁高等学校跡地	262
県立水泳場	264
武道館	266
富士水泳場	268
ソフトボール場	270
庵原高等学校跡地	272

施設アセスメントシート

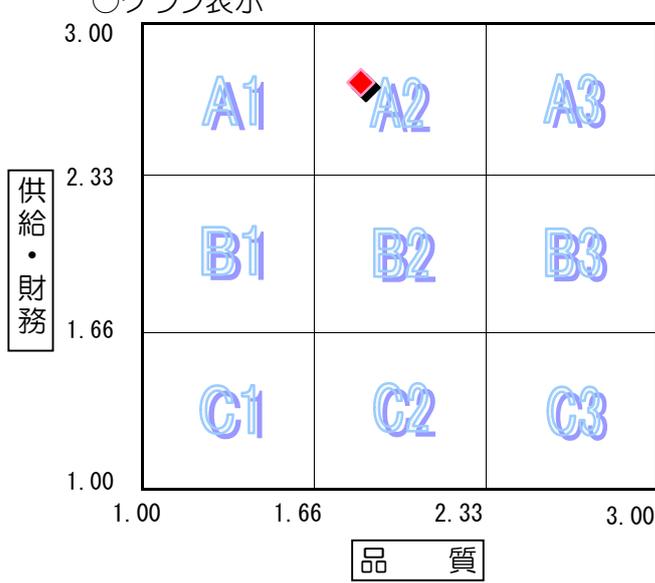
基本情報	施設番号	101500011037	施設名称	総合研修所もくせい会館		外部 
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	福利厚生課		
	用途	研修施設		設置年	1987	
	施設目的	県職員の研修及び福利厚生				内部 
	敷地面積	6,339.64 m ²	延床面積	12,718.24 m ²		
	土地台帳価格	1,104,700 千円	建物台帳価格	2,519,497 千円		
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: 静鉄日吉町駅から 徒歩5分 タクシー2分				

◆ 第1段階 A2 品質 1.90点 供給・財務 2.75点

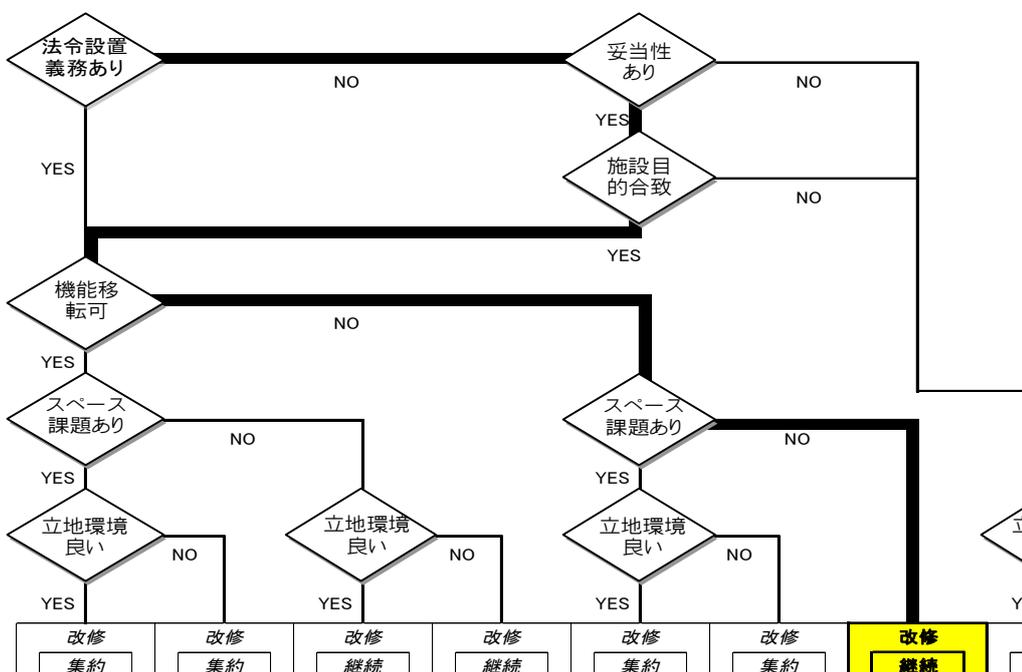
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	29.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1987.0年 1.00点
		外壁	2015.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1987.0年 1.00点
		受変電設備	1987.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.09GJ (49.81)	2.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	2,364円 (41.49)	3.00点
財務	コスト/面積	9,295円 (53.27)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,776	百万円	維持管理費 B(※2)	1,152	百万円
	使用年数 A(※1)	29.0	年	小計	4,928	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	733	百万円	維持管理費 (※3)	397	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,130	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	733	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,556	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,744	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	研修・会議室、宴会・パーティー、宿泊、レストラン
これまでの保全の状況	消防設備改修、屋上トップライト補修、冷温水機更新、外壁改修、地下駐車場管制装置更新
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も県職員等の研修施設及び福利厚生施設等としての役割をになう責務がある一方で、施設面においては築29年を経過しており、随時改修等の手当をする必要がある。よって、継続・改修とすることが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設

施設アセスメントシート

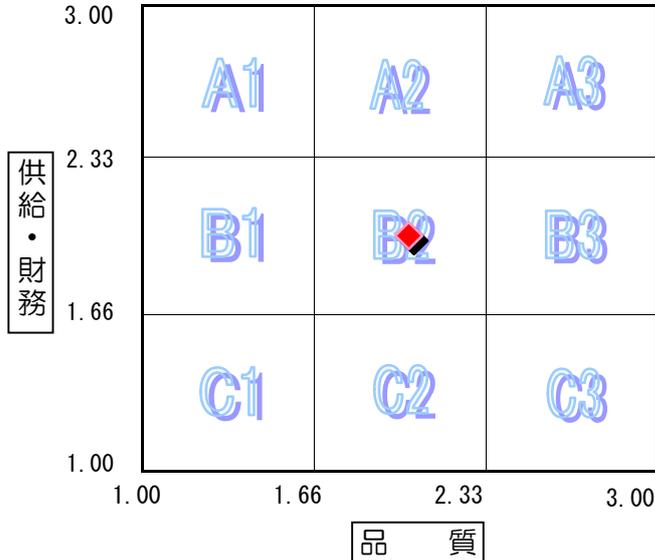
基本情報	施設番号	103111011003	施設名称	下田総合庁舎		外部 
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	下田財務事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1986	
	施設目的					内部 
	敷地面積	15,538.63 m ²	延床面積	12,220.28 m ²		
	土地台帳価格	350,818 千円	建物台帳価格	2,208,589 千円		
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:伊豆急下田駅から 徒歩10分				

◆ 第1段階 B2 品質 2.10点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

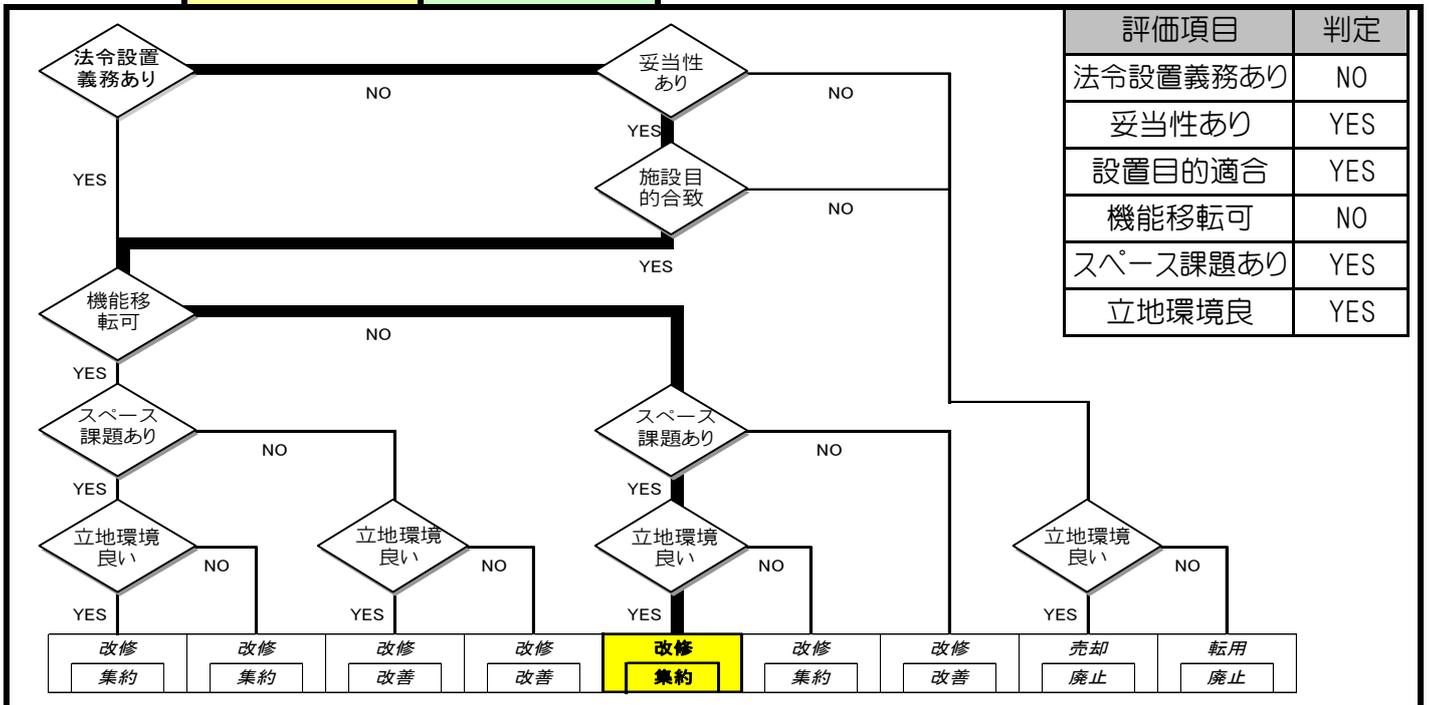
品質	建築後経過年数	30.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1986.0年 1.00点
		外壁	2014.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.0年 3.00点
		受変電設備	1986.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.61GJ (48.58)	2.00点
供給	面積/人数	14.29m ² (53.98)	3.00点
財務	コスト/人	621,933円 (52.79)	2.00点
財務	コスト/面積	10,789円 (55.41)	1.00点

○グラフ表示



品質

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,637	百万円	維持管理費 B(※2)	1,404	百万円
	使用年数 A(※1)	30.0	年	小計	5,041	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	704	百万円	維持管理費 (※3)	468	百万円
	大規模改修費	2,830	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	4,003	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	704	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,535	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,715	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	大規模地震で津波が発生した場合、下田総合庁舎の想定浸水域は3メートルを超え、庁舎1階にある非常用自家発電施設が浸水してしまうことから、最低限必要となる通信施設等のために現在非常用自家発電施設を2階建ての別館屋上へ増設している。
現在の利用状況	庁舎内会議室等で会議等が開催される場合を除き、平日昼間の利用者は少ない。
これまでの保全の状況	非常用自家発電設備(受変電設備、発電設備、電力貯蔵設備、電力設備)は対応年数が30年(蓄電池は7年~16年)となっており、劣化診断でも「C」判定となっている。 ・過去の改修工事:H22~H23熱交換器等空調関係修繕
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	大規模地震等による津波災害の想定浸水域にあり、危機管理機能移転のため防災棟庁舎を建設。一方、現庁舎は庁舎自体築30年を過ぎており、劣化箇所を改修する必要がある。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要
足 がある施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	103113011003	施設名称	熱海総合庁舎		外部 
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	熱海財務事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1984	
	施設目的	県総合庁舎				内部 
	敷地面積	4,303.77 m ²	延床面積	5,602.59 m ²		
	土地台帳価格	394,502 千円	建物台帳価格	960,998 千円		
	用途地域	近隣商業地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: 来宮駅から 徒歩8分				

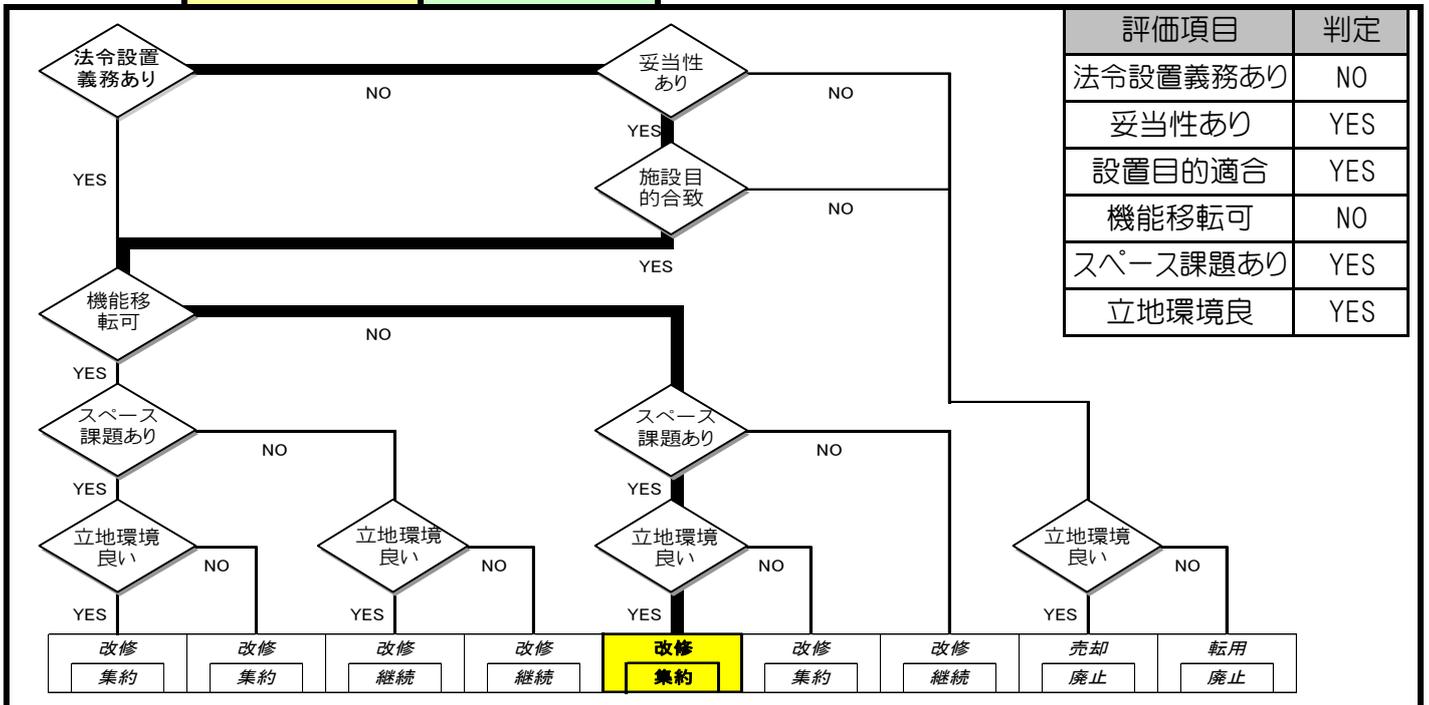
◆ 第1段階 A2 品質 2.03点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	32.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1984.0年	1.00点
		外壁 2005.5年	2.72点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2010.0年	2.58点
		受変電設備 1984.0年	1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.60GJ (48.89)	2.00点
供給	面積/人数	12.29m ² (49.45)	3.00点
財務	コスト/人	512,729円 (50.80)	2.00点
財務	コスト/面積	9,884円 (54.11)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,664	百万円	維持管理費 B(※2)	1,044	百万円
	使用年数 A(※1)	32.0	年	小計	2,708	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	323	百万円	維持管理費 (※3)	326	百万円
	大規模改修費	1,298	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,947	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	323	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,620	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,620	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	県の機関として健康福祉センター(1F)、財務事務所(3F)、土木事務所(4F)があり職員約100名。その他入居団体として熱海食品衛生協会(1F)、熱海市ふるさとハローワーク(2F)がある。
これまでの保全の状況	○劣化診断判定の主なもの 屋上:コンクリート爆裂鉄筋腐食 換気扇フード 錆 外壁:巾木石-床タイル取合部隙間浮き等 スロープ:注意喚起シート劣化 内部:トイレ・湯沸室タイル浮き 電気設備:期待耐用年数超 ○外壁 タイル浮き有 ※自火報・放送設備、照明用非常電源装置H28更新予定 外壁修繕H29予定
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に熱海地域の行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においても経年劣化により老朽化が進行しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

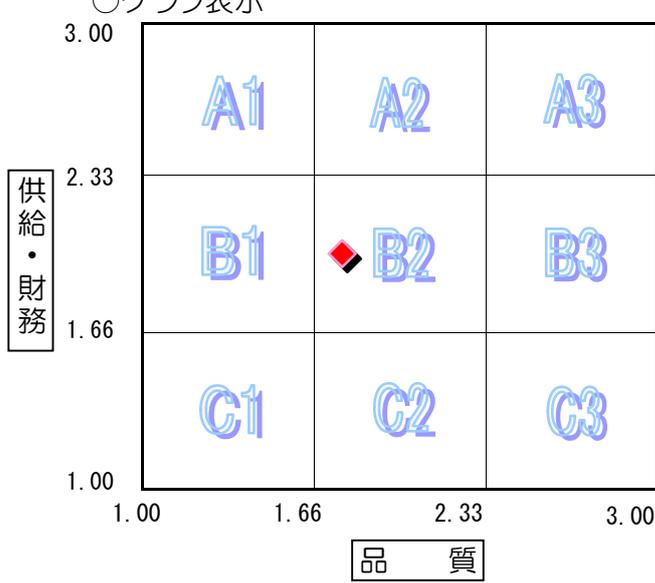
基本情報	施設番号	103115011002	施設名称	東部総合庁舎		外部 
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	沼津財務事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1972	
	施設目的	県総合庁舎				内部 
	敷地面積	13,222.86 m ²	延床面積	13,426.55 m ²		
	土地台帳価格	1,607,994 千円	建物台帳価格	636,412 千円		
	用途地域	商業地域	路線価	84,565 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:沼津駅から 徒歩10分				

◆第1段階 **B2** 品質 1.82点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

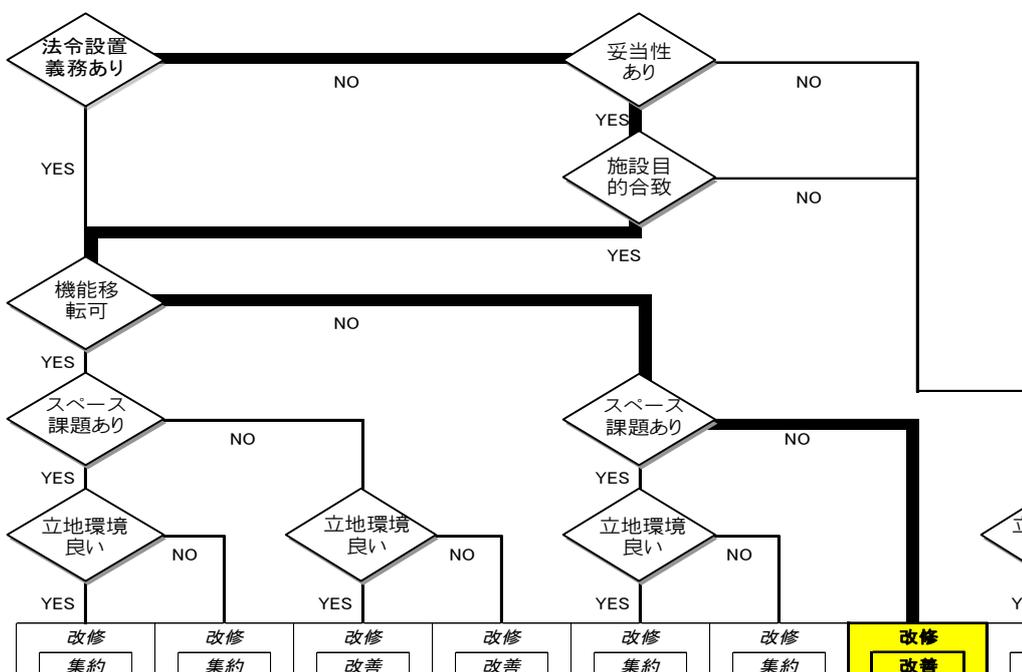
品質	建築後経過年数	41.6年	1.20点
品質	建築劣化度	屋上防水	1974.4年 1.00点
		外壁	2014.3年 2.93点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2009.9年 3.00点
		受変電設備	2010.0年 2.39点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.83GJ (42.38)	1.00点
供給	面積/人数	8.12m ² (40.05)	2.00点
財務	コスト/人	201,286円 (45.12)	2.00点
財務	コスト/面積	8,845円 (52.63)	2.00点

○グラフ表示



品質

◆第2段階 **施設面: 改修** **運用面: 改善**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,239	百万円	維持管理費 B(※2)	3,516	百万円
	使用年数 A(※1)	41.6	年	小計	4,755	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	774	百万円	維持管理費 (※3)	844	百万円
	大規模改修費	2,994	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	4,612	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	774	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,883	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	6,279	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・職員数が多く、執務室が手狭である。会議室も不足。 ・駐車場が少なく、混雑することがある。
これまでの保全の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・低層棟屋上防水劣化(C判定)、別館屋上防水劣化等 ・内部配管劣化多数(その都度修繕。ただし、故障要因が常に潜在) ・大規模修繕実績 H25低層棟空調更新約6000万円 H27外壁修繕約7000万円
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に東部地域の行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においても経年劣化により老朽化が進行しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、改善・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	103117011002	施設名称	富士総合庁舎	外部
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	富士財務事務所	外部 
	用途	庁舎等	設置年	1986	
	施設目的	県総合庁舎			内部 
	敷地面積	12,249.56 m ²	延床面積	9,798.72 m ²	
	土地台帳価格	1,527,695 千円	建物台帳価格	1,668,544 千円	
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:JR富士駅から バス10分			

◆第1段階 A2 品質 2.09点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	30.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1986.0年 1.00点
		外壁	2012.8年 2.92点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2014.8年 3.00点
		受変電設備	1986.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.67GJ (46.87)	2.00点
供給	面積/人数	12.50m ² (49.94)	3.00点
財務	コスト/人	471,270円 (50.04)	2.00点
財務	コスト/面積	9,763円 (53.94)	2.00点

○グラフ表示

品質: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00
供給・財務: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00

◆第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	2,587	百万円	維持管理費 B(※2)	1,590	百万円
	使用年数 A(※1)	30.0	年	小計	4,177	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	565	百万円	維持管理費 (※3)	530	百万円
	大規模改修費	2,269	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	3,364	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	565	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,834	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	4,582	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	・大きな会議がある際に、来庁者用駐車場が不足することがある。
これまでの保全の状況	【劣化診断結果】 ・外壁の爆裂及びシーリング硬化 ・排煙オペレータ動作不良 ・エレベータ不適合(H28改修予定) 【修繕・改修履歴】 ・中央監視室装置更新(H19)約18,200千円 ・屋上通信鉄塔建替工事(H19)約49,200千円 ・消防用設備更新工事(H23)約4,700千円
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に岳南地域の行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においても経年劣化により老朽化が進行しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	103119011003	施設名称	静岡総合庁舎		外部
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	静岡財務事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1982	
	施設目的	県総合庁舎				
	敷地面積	8,303.78 m ²	延床面積	15,158.30 m ²		内部
	土地台帳価格	1,189,095 千円	建物台帳価格	1,615,071 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅から バス15分				

◆ 第1段階 A3 品質 2.50点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	34.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2011.0年 3.00点
		外壁	2010.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2010.0年 3.00点
		受変電設備	2009.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.63GJ (48.09)	2.00点
供給	面積/人数	12.03m ² (48.88)	3.00点
財務	コスト/人	276,419円 (46.49)	2.00点
財務	コスト/面積	6,127円 (48.73)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 集約

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良い	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,172	百万円	維持管理費 B(※2)	2,546	百万円
	使用年数 A(※1)	34.0	年	小計	5,718	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	874	百万円	維持管理費 (※3)	749	百万円
	大規模改修費	3,511	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	5,133	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	874	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	4,384	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	7,089	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	静岡財務事務所をはじめ、県の出先機関が執務室として利用している。また、静岡県土地改良事業団体連合会など他団体が入居しており、業務を行っている。休日は、一部の所属で電話相談を行っている。
これまでの保全の状況	劣化診断でC判定であった箇所(防火シャッター、自動火災報知機、直流電源装置)については、改修済み。 H27に自動火災報知設備(約970万円)と直流電源装置(約2,200万円)を更新。 H24に非常用発電機の72時間対応化とオーバーホールを実施。(約4,300万円)
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に静岡地域の行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においても経年劣化により老朽化が進行しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、集約・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	103121011002	施設名称	藤枝総合庁舎		外部 
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	藤枝財務事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1982	
	施設目的	県総合庁舎				内部 
	敷地面積	15,133.60 m ²	延床面積	7,105.29 m ²		
	土地台帳価格	960,854 千円	建物台帳価格	457,108 千円		
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR藤枝駅から バス10分				

◆ 第1段階 B2 品質 2.20点 供給・財務 1.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	34.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1997.0年	1.75点
		外壁 2007.5年	2.75点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2004.8年	2.25点
		受変電設備 2008.0年	2.25点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.54GJ (50.73)	2.00点
供給	面積/人数	6.41m ² (36.19)	1.00点
財務	コスト/人	196,114円 (45.02)	2.00点
財務	コスト/面積	7,232円 (50.32)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,030	百万円	維持管理費 B(※2)	1,259	百万円
	使用年数 A(※1)	34.0	年	小計	2,289	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	410	百万円	維持管理費 (※3)	370	百万円
	大規模改修費	1,646	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	2,425	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	410	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,055	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,323	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 平日昼間は来客者も多く、大きな会議等がある際は、駐車場が不足している。 未利用・低利用スペースはなし。
これまでの保全の状況	<ul style="list-style-type: none"> 本館の屋上防水が劣化(C判定)しており、過去に大規模な雨漏りが発生している。 本館の空調設備が劣化(B判定)しており、年々、不具合も増えている。 H21に外壁補修を実施(約2,400万円) ・H24に非常用自家発電設備を改修(約3,800万円)
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に志太榛原地域の行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においても経年劣化により老朽化が進行しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、改善・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

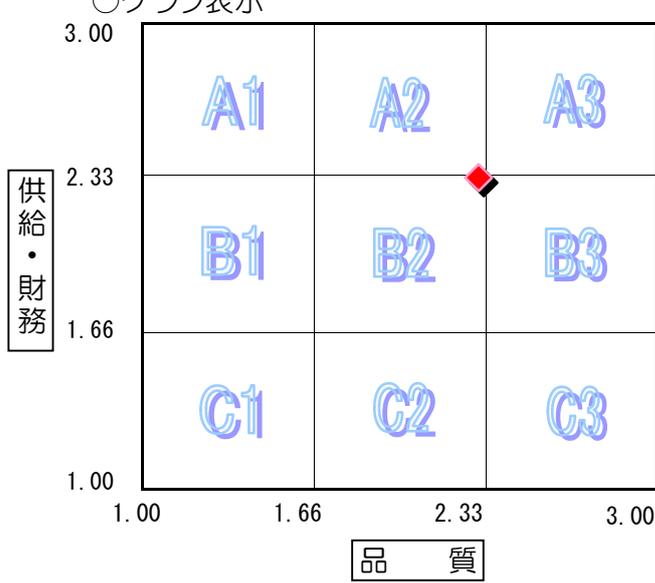
基本情報	施設番号	103123011002	施設名称	中遠総合庁舎		外部
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	磐田財務事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1979	
	施設目的	県総合庁舎				
	敷地面積	14,320.26 m ²	延床面積	11,154.29 m ²		内部
	土地台帳価格	753,450 千円	建物台帳価格	969,496 千円		
	用途地域	工業地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:磐田から バス10分				

◆ 第1段階 A3 品質 2.39点 供給・財務 2.33点

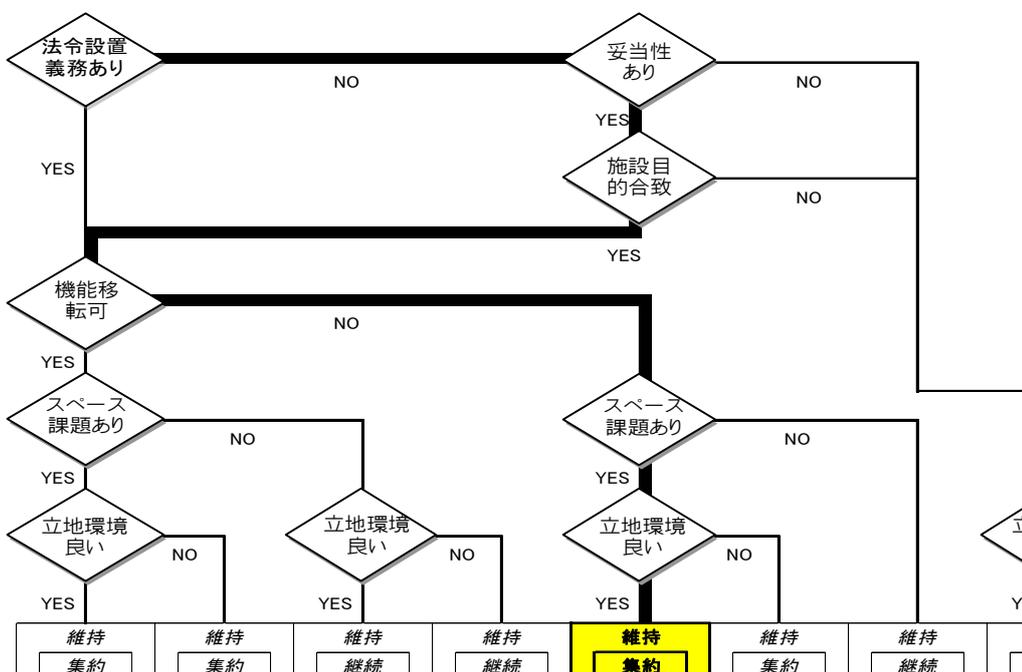
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	37.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 2005.4年	2.70点
		外壁 2008.9年	3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2005.4年	2.70点
		受変電設備 2009.7年	2.70点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.56点
品質	エネルギー/面積	0.52GJ (51.21)	2.00点
供給	面積/人数	10.11m ² (44.53)	2.00点
財務	コスト/人	194,440円 (44.99)	3.00点
財務	コスト/面積	5,142円 (47.32)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良い	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	875	百万円	維持管理費 B(※2)	1,790	百万円
	使用年数 A(※1)	37.0	年	小計	2,665	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	643	百万円	維持管理費 (※3)	484	百万円
	大規模改修費	2,583	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	3,710	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	643	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,226	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	5,216	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	主に県の出先機関が事務所として利用している。
これまでの保全の状況	屋根や外壁、床等の建物全般、電気設備や空調設備等、主要部分の多くが劣化診断でC判定を受けている。 H15西館耐震補強 H22空調エアハンドリングユニット更新 H27受変電設備更新、エレベーター更新
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に中東遠地域の行政サービスを提供する責務があり、第2段階の結果のとおり、集約・維持とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **集約**

補足 施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、スペースに課題があるため、他の機能を取り込む等の検討をする必要がある施設。

施設アセスメントシート

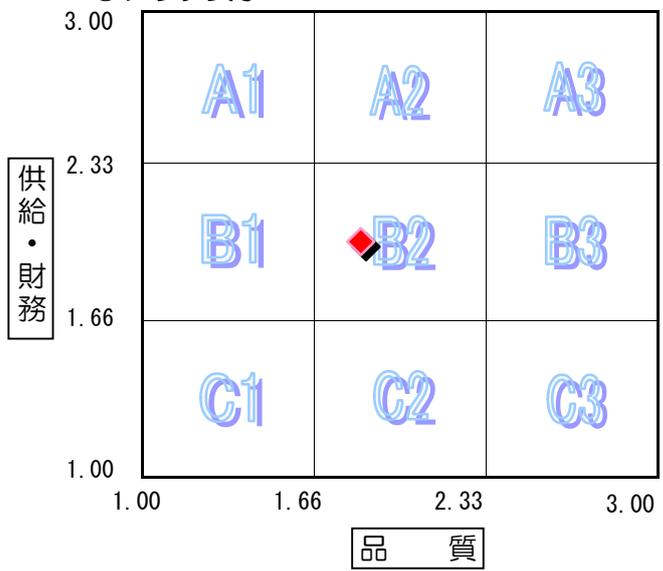
基本情報	施設番号	103125011009	施設名称	浜松総合庁舎		外部 
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	浜松財務事務所		
	用途	庁舎等		設置年	1989	
	施設目的	県総合庁舎				内部 
	敷地面積	13,545.20 m ²	延床面積	16,400.95 m ²		
	土地台帳価格	2,691,296 千円	建物台帳価格	3,195,788 千円		
	用途地域	近隣商業地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から 徒歩10分				

◆ 第1段階 B2 品質 1.90点 供給・財務 2.00点

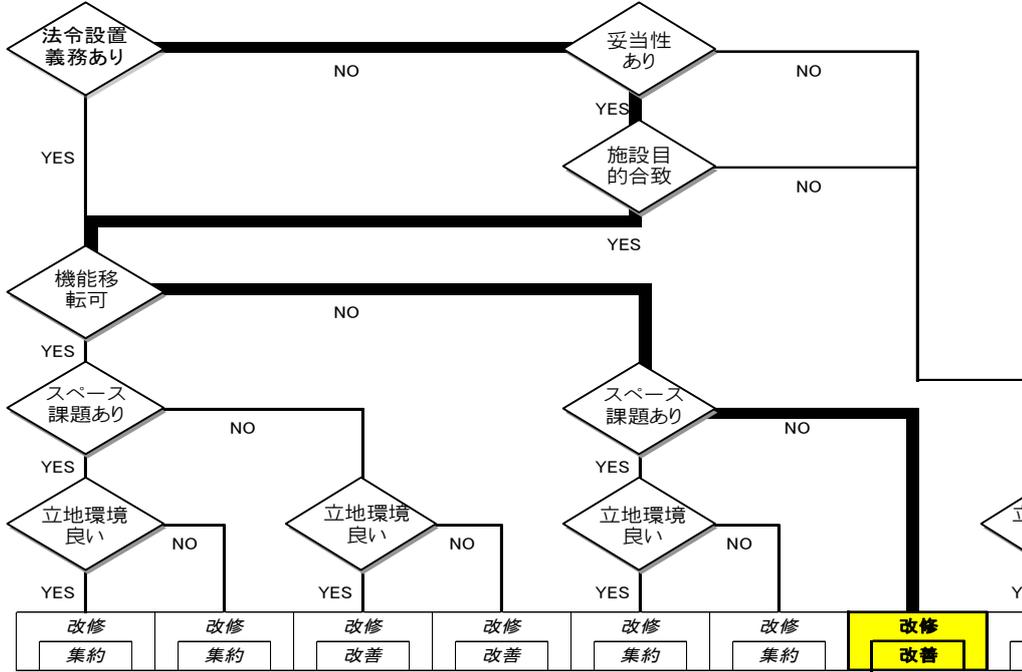
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	27.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1989.0年 1.00点
		外壁	2015.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1989.0年 1.00点
		受変電設備	1989.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.60GJ (49.07)	2.00点
供給	面積/人数	15.96m ² (57.73)	2.00点
財務	コスト/人	260,095円 (46.19)	2.00点
財務	コスト/面積	6,740円 (49.61)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	4,993	百万円	維持管理費 B(※2)	2,424	百万円
	使用年数 A(※1)	27.0	年	小計	7,417	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	945	百万円	維持管理費 (※3)	898	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,843	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	945	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	4,744	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	7,670	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	未利用スペースもなく利用出来ている。
これまでの保全の状況	平成23年度劣化診断実施 C判定屋上防水、飛散防止フィルム、受変電設備(一部実施)、蓄電池設備(一部実施) 屋外配管、昇降機改修(非常用EV実施)。中央監視装置、受水槽、冷却塔 平成24-25年度非常用発電設備改修工事(地下式燃料タンク設置)43,983千円 平成25年度非常用放送設備更新工事5,219千円 平成26年度非常用直流電源装置蓄電池等更新工事5,184千円 平成27年度外壁改修工事39,600千円 平成27年度非常用エレベーター設備改修工事26,819千円
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に西遠地域の行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においても経年劣化により老朽化が進行しているため改修等の手当てをする必要があり、第2段階の結果のとおり、改善・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

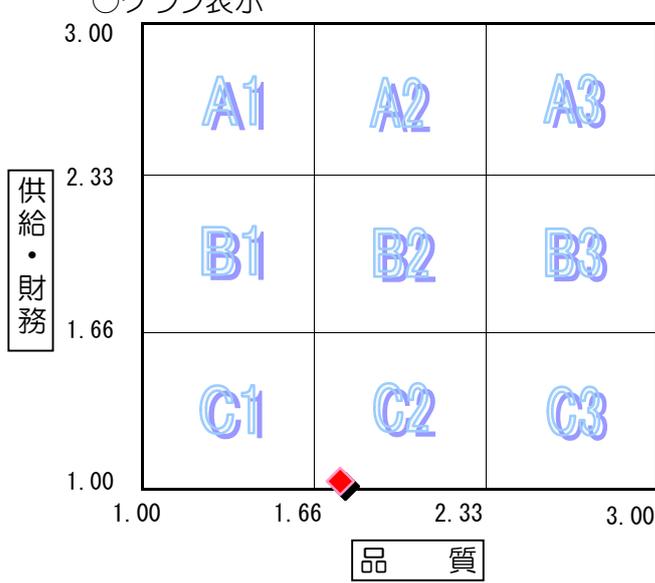
基本情報	施設番号	103600011003	施設名称	本庁舎		外部
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	管財課		
	用途	庁舎等		設置年	1996	
	施設目的	県の行政事務				
	敷地面積	22,047.72 m ²	延床面積	90,917.29 m ²		内部
	土地台帳価格	6,367,738 千円	建物台帳価格	12,981,664 千円		
	用途地域	商業地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅から 徒歩12分				

◆ 第1段階 C2 品質 1.82点 供給・財務 1.00点

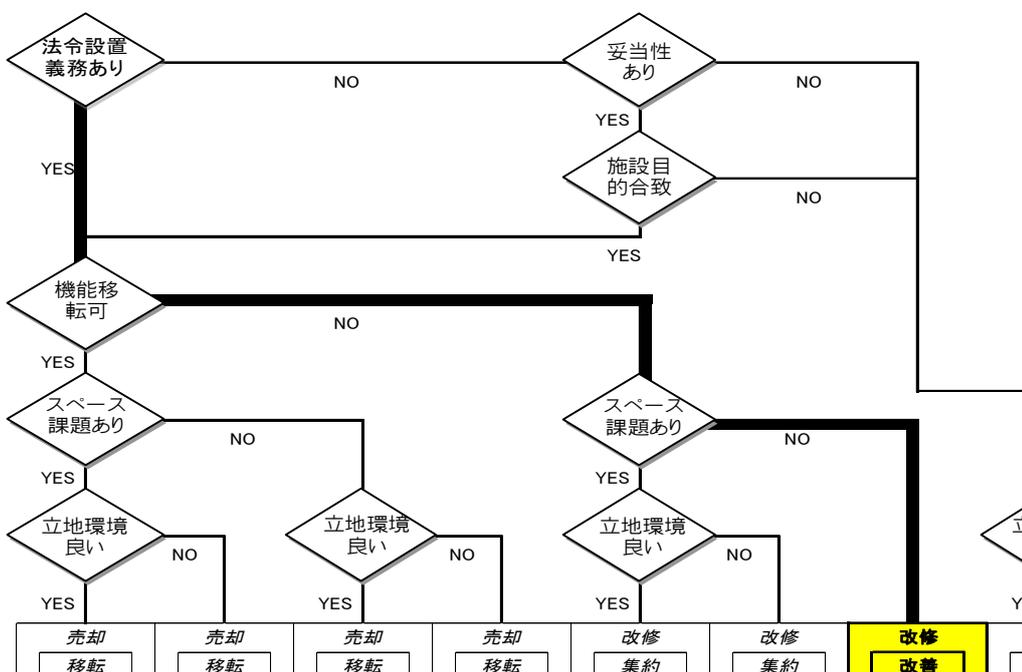
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	41.8年	1.38点
品質	建築劣化度	屋上防水	2003.0年 2.24点
		外壁	2001.6年 1.96点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2000.3年 1.62点
		受変電設備	2000.0年 1.62点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.13GJ (62.53)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	12,396円 (57.71)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	25,946	百万円	維持管理費 B(※2)	33,479	百万円
	使用年数 A(※1)	41.8	年	小計	59,425	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	5,097	百万円	維持管理費 (※3)	8,016	百万円
	大規模改修費	3,636	百万円	建替え経費	15,603	百万円
	解体費	970	百万円	小計	33,321	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	5,097	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	25,578	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	41,355	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	庁舎として利用
これまでの保全の状況	
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	(要記載)
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

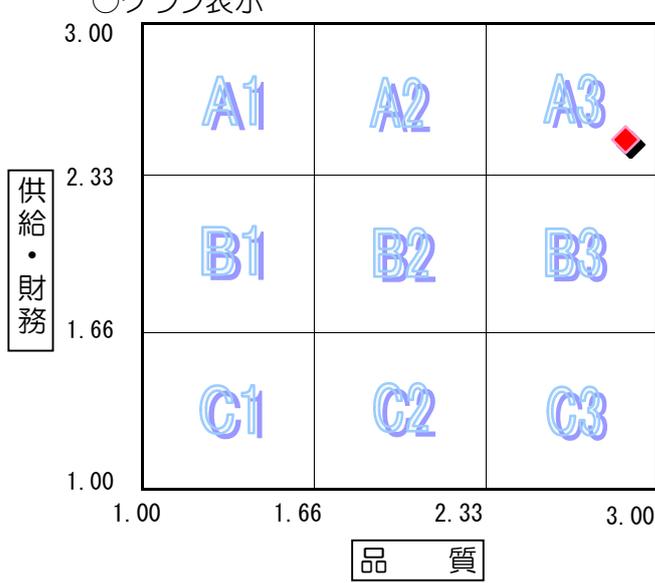
基本情報	施設番号	107500011003	施設名称	田町文庫	外部
	財産管理者	経営管理部	財産事務取扱者	法務文書課	
	用途	庁舎等	設置年	2006	
	施設目的	文書の保管			
	敷地面積	2,166.89 m ²	延床面積	899.71 m ²	
	土地台帳価格	277,671 千円	建物台帳価格	56,265 千円	
	用途地域	準工業地域	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡から バス25分			

◆ 第1段階 A3 品質 3.00点 供給・財務 2.50点

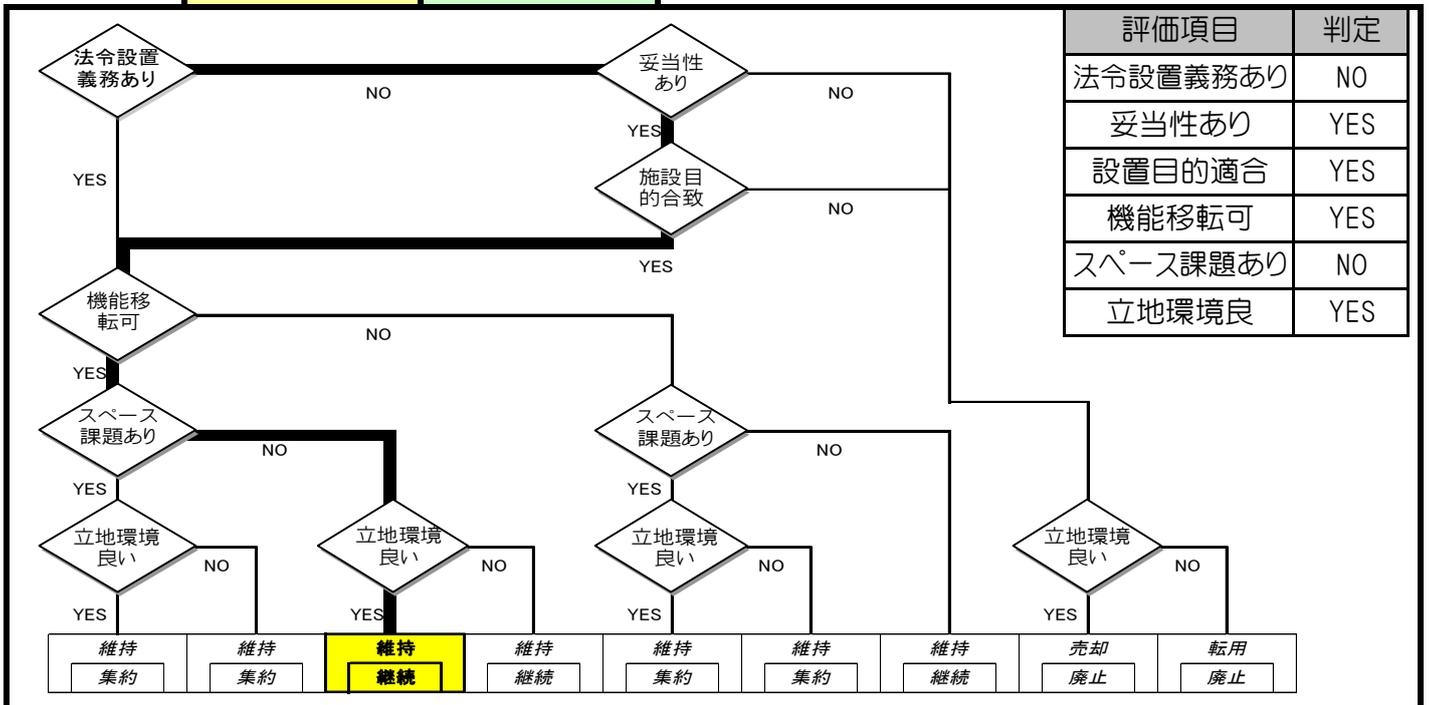
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	10.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2006.0年 3.00点
		外壁	2006.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2006.0年 3.00点
		受変電設備	2006.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	0.05GJ (64.83)	3.00点
供給	面積/人数	-	-
財務	コスト/人	458,389円 (49.81)	2.00点
財務	コスト/面積	509円 (40.69)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 継続



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	68	百万円	維持管理費 B(※2)	5	百万円
	使用年数 A(※1)	10.0	年	小計	73	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	52	百万円	維持管理費 (※3)	5	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	56	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	52	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	260	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	421	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	歴史的公文書の保存エリアの容量が限界に近づいているため、平成28年度に移動書架を設置し容量を拡充する。
現在の利用状況	有期限文書の保存エリアの収容率は約7割程度、歴史的公文書の保存エリアの収容率は9割を超過している。
これまでの保全の状況	特に劣化もなく、これまで大きな改修・修繕は実施していない。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	建設後10年程度しか経過しておらず大きな劣化は認められないこと、また、文庫としての機能は十分に発揮していることから、今後も適切な管理に努めこのまま維持していく。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足	施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。
----	--------------------------------------

施設アセスメントシート

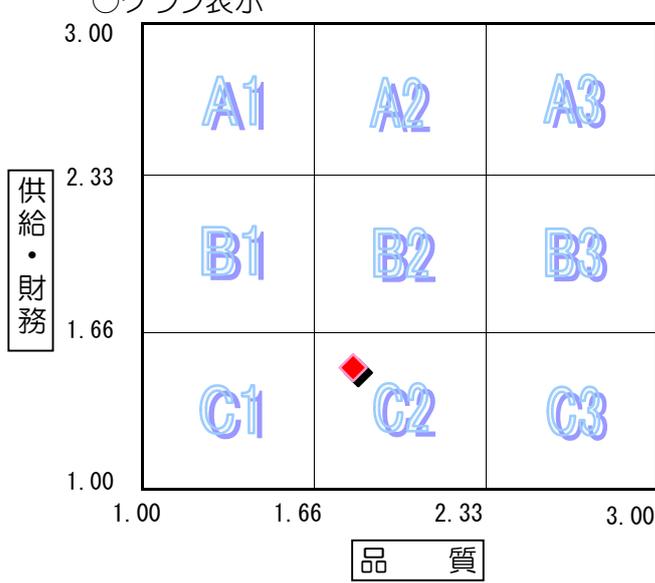
基本情報	施設番号	108101011001	施設名称	消防学校		外部
	財産管理者	危機管理部	財産事務取扱者	消防学校		
	用途	教育施設		設置年	1997	
	施設目的	消防職団員への教育訓練の実施				
	敷地面積	36,972.82 m ²		延床面積	8,641.69 m ²	
	土地台帳価格	1,859,838 千円		建物台帳価格	1,154,817 千円	
	用途地域	住居地域		路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: JR興津駅から バス15分 徒歩5分				

◆ 第1段階 C2 品質 1.87点 供給・財務 1.50点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

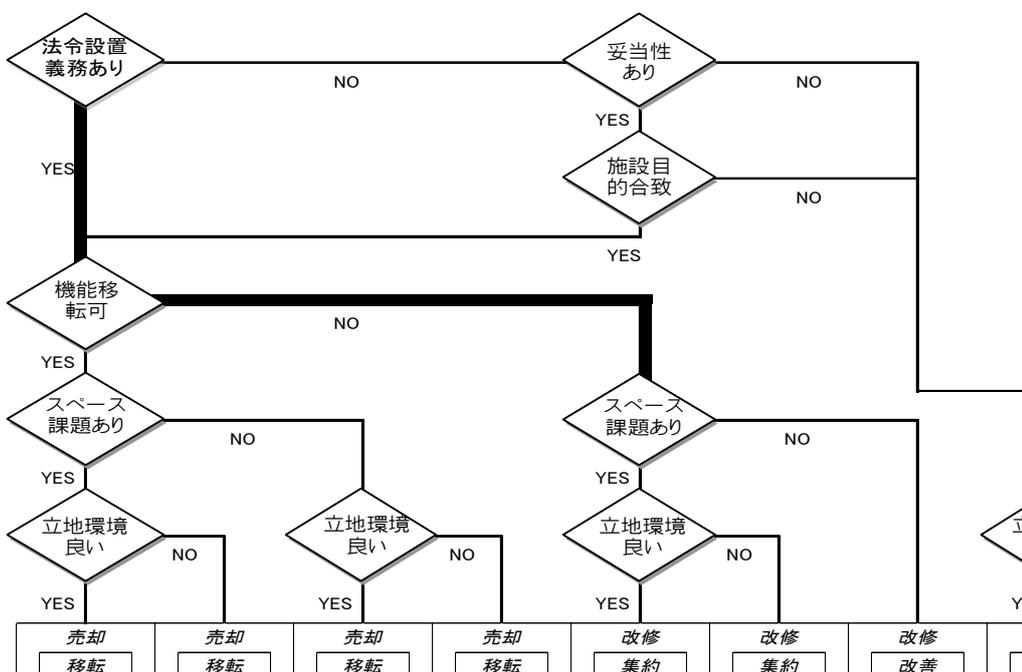
品質	建築後経過年数	27.2年	2.32点
品質	建築劣化度	屋上防水	1990.5年 1.44点
		外壁	1990.5年 1.44点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1989.8年 1.12点
		受変電設備	1985.0年 0.24点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.41GJ (54.32)	2.00点
供給	面積/人数	5.94m ² (43.48)	2.00点
供給	生徒充足率	727.00%	1.00点
供給	入学試験倍率	-	-
財務	コスト/人	1,803,311円 (74.34)	1.00点
財務	コスト/面積	3,756円 (45.34)	2.00点

○グラフ表示



品 質

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,946	百万円	維持管理費 B(※2)	442	百万円
	使用年数 A(※1)	27.2	年	小計	2,388	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	278	百万円	維持管理費 (※3)	163	百万円
	大規模改修費	1,084	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,525	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	278	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,870	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,112	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	具体的な計画は特になし。 施設や訓練設備等の老朽化、陳腐化への対応について検討中。
現在の利用状況	通年利用。寮定員200名に対し50名から180名程度の利用がある。
これまでの保全の状況	管理教育棟外壁劣化しており、内部の壁、床等に浸水の形跡がある。 管理教育棟、宿泊棟の屋上太陽熱集熱設備は劣化による漏水で設備の一部の使用を中止している。 H27に中央監視装置更新(30年経過)。約3,700万円。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	敷地スペースについては、法面や緑地で使用できない面積も多いこと、訓練スペースの不足により通路等も訓練場所として使用する場合があることなどから集約は困難であり、改善・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。
足 ※敷地が広大であるが、訓練用途として必要な面積であるため、スペースの課題あり「NO」とする。

施設アセスメントシート

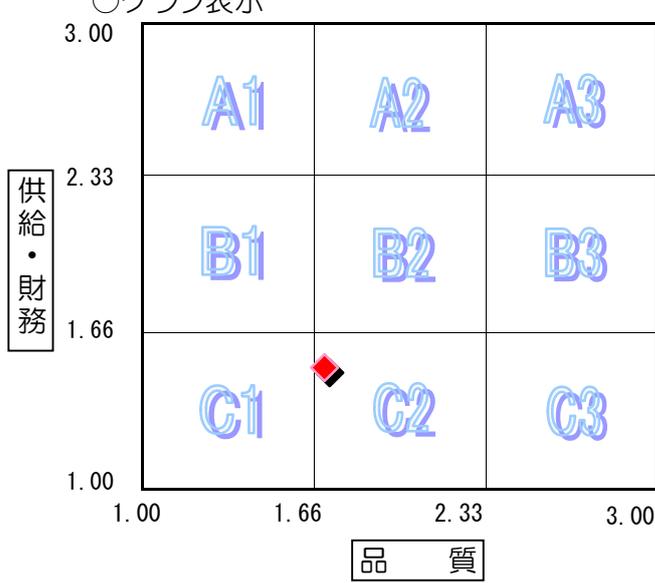
基本情報	施設番号	108102011001	施設名称	環境放射線監視センター	外部
	財産管理者	危機管理部	財産事務取扱者	環境放射線監視センター	
	用途	研究施設	設置年	1981	
	施設目的	浜岡原子力発電所周辺の環境放射線の監視及び測定を行う			
	敷地面積	3,894.45 m ²	延床面積	1,287.92 m ²	内部
	土地台帳価格	131,822 千円	建物台帳価格	240,264 千円	
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: 菊川駅から バス40分 徒歩10分			

◆ 第1段階 C2 品質 1.75点 供給・財務 1.50点

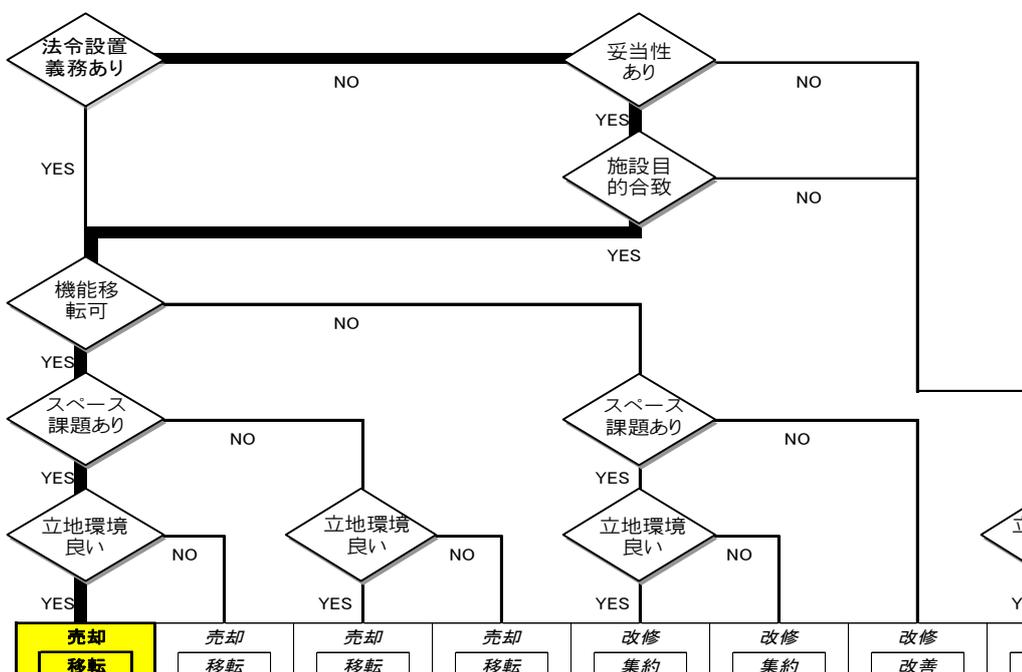
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	35.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1981.0年 1.00点
		外壁	1981.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2004.0年 2.00点
		受変電設備	1981.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	4.96GJ (10.69)	1.00点
供給	面積/人数	52.62m ² (47.07)	3.00点
財務	コスト/人	3,752,164円 (109.89)	1.00点
財務	コスト/面積	37,874円 (94.19)	1.00点
財務	収入/人	-	-
財務	支出/人	13,085円 (10.68)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 売却 運用面: 移転



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	470	百万円	維持管理費 B(※2)	111	百万円
	使用年数 A(※1)	35.0	年	小計	581	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	74	百万円	維持管理費 (※3)	32	百万円
	大規模改修費	487	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	593	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	74	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	561	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	917	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	オフサイトセンターとの合築で新庁舎を建設し、事務部門は昨年度末に移転済み。本年度中に測定分析部門の移転、管理区域の除染及び廃止手続きを行う。一部は測定局として引き続き使用するが、大部分は来年度から使用しない。
現在の利用状況	本年度当初から事務部門、10月から測定分析部門の職員が新センターで業務を行っており、当該施設は、今後の利活用に向け、放射線管理区域の廃止手続き及び除染作業を行っていく予定である。
これまでの保全の状況	外壁が劣化(C判定)しており、タイルの浮きがかなり見られる。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	新庁舎が建設済みであり、第2段階の結果のとおり、移転・売却が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足	現行計画(移転建て替え)に沿って、移転・売却を図っていく施設
----	--------------------------------

施設アセスメントシート

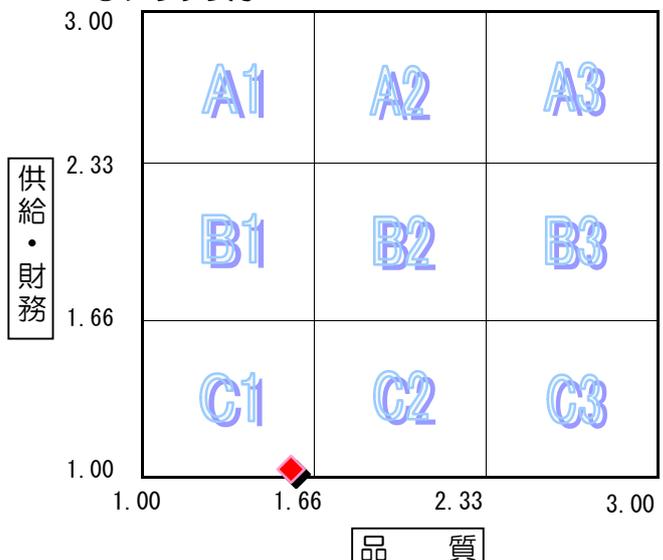
基本情報	施設番号	108102013001	施設名称	環境放射線監視センター職員公舎	外部 
	財産管理者	危機管理部	財産事務取扱者	環境放射線監視センター	
	用途	職員住宅	設置年	1982	内部 
	施設目的	環境放射線量の異常や環境放射線の常時監視システムの機器の不具合等不測の事態があった場合、迅速に対応するため			
	敷地面積	608.15 m ²	延床面積	286.60 m ²	
	土地台帳価格	10,696 千円	建物台帳価格	17,125 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: 菊川駅から バス40分 徒歩10分			

◆ 第1段階 C1 品質 1.61点 供給・財務 1.00点

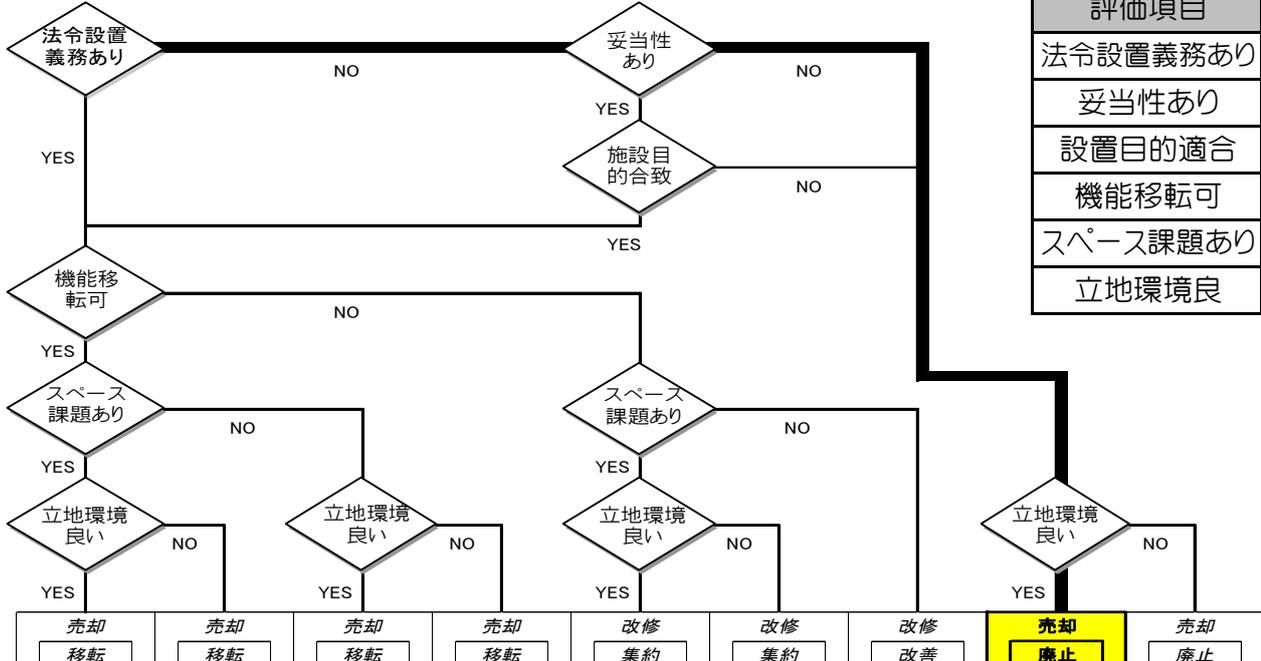
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	34.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1982.0年 1.00点
		外壁	1982.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1982.0年 1.00点
		受変電設備	1982.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	面積/人数	-	-
供給	入居率・入所率	25.0%	1.00点
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 売却 運用面: 廃止



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	41	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	34.0	年	小計	41	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	5	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	5	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	9	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	57	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	97	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	環境放射線量の異常や環境放射線の常時監視システムの機器の不具合等不測の事態があった場合、迅速に対応するために庁舎付近に建設されたが、新庁舎が遠方に建設され、当初の施設目的が果たせなくなることから、今後の利用予定はない。
現在の利用状況	4戸のうち1戸が利用されているが、8月以降退去予定。
これまでの保全の状況	屋根防水工事や壁修繕工事等多数
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	新庁舎が約20km離れた場所に建設されて緊急時の迅速な対応が困難となっとうえ、利用率が低く、老朽化も著しいため、第2段階の結果のとおり、廃止・売却が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **売却**

運用面: **廃止**

補足	機能は廃止されており、他の用途への転用も含め、処分を検討していく必要がある施設。
----	--

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	108400012001	施設名称	地震防災センター		外部 	
	財産管理者	危機管理部	財産事務取扱者	危機情報課			
	用途	貸館施設		設置年	1988	内部 	
	施設目的	地震防災に関する知識と対策について県民への啓発を行う					
	敷地面積	5,023.02 m ²	延床面積	3,059.06 m ²			
	土地台帳価格	783,204 千円	建物台帳価格	353,728 千円			
	用途地域	近隣商業地域	路線価	- 円/m ²			
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅から バス15分					

◆ 第1段階 A2 品質 1.95点 供給・財務 2.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	28.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1988.0年 1.00点
		外壁	2006.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1988.0年 1.00点
		受変電設備	1988.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.57GJ (55.06)	3.00点
供給	稼働率	83.8%	3.00点
財務	コスト/人	315円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	5,192円 (47.40)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	850	百万円	維持管理費 B(※2)	246	百万円
	使用年数 A(※1)	28.0	年	小計	1,096	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	176	百万円	維持管理費 (※3)	88	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	264	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	176	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,186	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,932	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	開館日は、団体を中心に来館者が利用している。また、講座開催日には、車での来館者が多く、駐車場が手狭となる。
これまでの保全の状況	・H27年度劣化診断により、受変電設備、空調設備、建築設備等ほとんどの設備がC判定。築28年を経過し、老朽化が進んでいる。 ・H18外壁改修工事(21,000千円)、H15,16,19,21,22空調設備改修工事(計約8,500千円)等
その他	数年に1回程度移転の話が出るが、現時点では実現の可能性が低い。

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては築30年を迎え老朽化が深刻化しているため改修等の手当をする必要があり、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	中期維持保全実施計画により今後5年以内に各種設備を改修する予定

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	108700013001	施設名称	原子力広報研修施設		外部	
	財産管理者	危機管理部	財産事務取扱者	原子力安全対策課			
	用途	研修施設		設置年	1977		
	施設目的	周辺住民に対する原子力に関する知識・情報の提供					
	敷地面積	0.00 m ²		延床面積	1,191.08 m ²		内部
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	71,036 千円		
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: 菊川駅から バス40分 徒歩3分					

◆ 第1段階 B3 品質 2.55点 供給・財務 1.75点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	39.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2013.0年 3.00点
		外壁	2013.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2012.0年 3.00点
		受変電設備	2012.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.22GJ (58.52)	3.00点
供給	稼働率	58.8%	2.00点
財務	コスト/人	1,376円 (41.47)	3.00点
財務	コスト/面積	28,449円 (80.70)	1.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 売却 運用面: 廃止

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	142	百万円	維持管理費 B(※2)	80	百万円
	使用年数 A(※1)	39.0	年	小計	222	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	34	百万円	維持管理費 (※3)	21	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	55	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	69	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	333	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	538	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	同市の中部電力(株)浜岡原子力発電所敷地内に立地する広報施設と比較して、利用者が少ない。 ※土地は借地
これまでの保全の状況	H24年に空調工事(故障)、約1000万円。電気設備工事(更新)、約1000万円。H25年に屋上防水、外壁塗装工事、約2800万円。H26年に高架水槽更新工事(更新)、約800万円。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、別の県有施設に広報展示施設を設ける予定であり、一定程度の役割を終えている。施設面においては、築35年を越え老朽化が進んでいるため、第2段階の結果のとおり、廃止・売却とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: 処分

運用面: 廃止

補足	一定の役割を終えた施設であり、廃止・処分を検討する施設。 ※土地が借地であるため、施設面の分類は「処分」とする。
----	---

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	161101012001	施設名称	県立美術館		外部 
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	県立美術館		
	用途	集客施設		設置年	1985	
	施設目的	美術の振興を図り、県民の文化の発展に寄与する				内部 
	敷地面積	0.00 m ²	延床面積	12,262.87 m ²		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	4,344,339 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR草薙駅からバス6分				

◆ 第1段階 A3 品質 2.45点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	29.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2009.7年 3.00点
		外壁	2009.7年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2009.2年 3.00点
		受変電設備	2008.5年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.84GJ (42.16)	1.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	2,235円 (41.48)	3.00点
財務	コスト/面積	26,342円 (77.68)	1.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	7,195	百万円	維持管理費 B(※2)	3,998	百万円
	使用年数 A(※1)	29.0	年	小計	11,193	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	707	百万円	維持管理費 (※3)	1,377	百万円
	大規模改修費	3,304	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	5,388	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	707	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	5,092	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	8,310	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平成27年度の展示観覧者数は11万人、付帯施設の県民ギャラリー及び講堂の利用者は7万人。展示観覧者数は近年は概ね年間10万～15万人で推移しているが、人気の高いエジプト展などの企画展示がある年(直近では22年度)は20万人を超えている。
これまでの保全の状況	劣化診断を踏まえながら、多発する設備の不具合に優先順位をつけて修繕を行っている。主なものは平成27年度は自火報及び機械警備システムを更新(約8000万円)。26年度は自家発電機オーバーホール(約2300万円)、ロダン館照明LED工事(3800万円)。25年度は消防設備ハロンボンベ等交換工事(約4000万円)
その他	美術館の敷地は県中央図書館から借用しているものだが、図書館および美術館の敷地内に国有地等(約6000㎡)が含まれている。現行法では一団の土地の中に国有地等が含まれている場合は、当該土地を整理(取得等)しなければ、建替・増築等の建築確認(静岡市)を受けられない状況にある。

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	条例に基づき、今後も継続的に県民へのサービスを提供する義務がある一方で、施設面においては特に本館は築30年を超え、建物・設備の老朽化による不具合が頻発しているため、早急に改修等の手当てが必要があり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足	空調等の設備系の老朽化が特に進んでいることから改修とする。 施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設
----	---

施設アセスメントシート

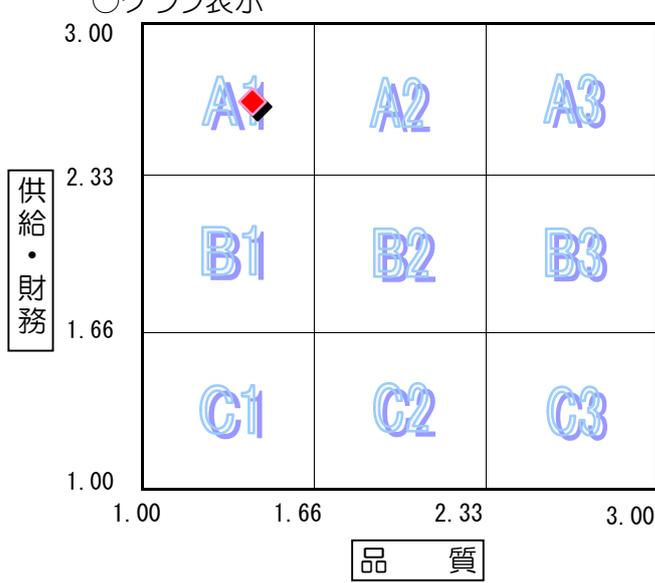
基本情報	施設番号	161113012001	施設名称	沼津労政会館		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	東部県民生活センター		
	用途	貸館施設		設置年	1973	
	施設目的	労働者の福祉の増進に寄与すること				
	敷地面積	1,989.00 m ²	延床面積	1,257.59 m ²		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	46,043 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR沼津駅から 徒歩10分 タクシー5分				

◆ 第1段階 **A1** 品質 1.45点 供給・財務 2.67点

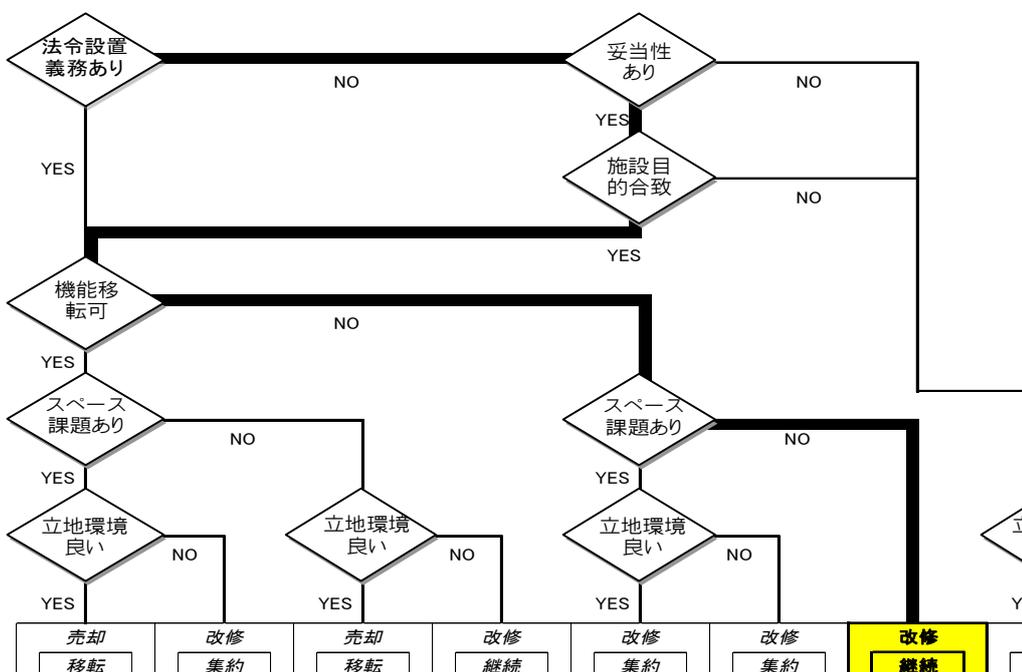
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	43.0年	1.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2005.0年 2.00点
		外壁	2005.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1993.0年 1.00点
		受変電設備	1973.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.81GJ (52.58)	2.00点
供給	稼働率	63.1%	3.00点
財務	コスト/人	57円 (41.44)	3.00点
財務	コスト/面積	4,641円 (46.61)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 改修** **運用面: 継続**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	76	百万円	維持管理費 B(※2)	110	百万円
	使用年数 A(※1)	43.0	年	小計	186	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	36	百万円	維持管理費 (※3)	26	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	62	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	72	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	487	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	794	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	指定管理者制度適用施設(協定期間は5年間)平成27年度～平成31年度
現在の利用状況	時間帯別の利用状況は、昼間も夜間も同等である。 曜日別の利用状況では、平日の利用が多く、週末・休日の利用はやや少ない。
これまでの保全の状況	地下オイルタンクが耐用年数超え(C判定)、地下オイルタンク内面漏洩対策工事(平成27年度)、受変電設備が劣化(C判定)、高圧引込ケーブル修繕工事を平成27年度、それ以外の受変電設備は平成28年度に実施、屋上防水が劣化(B、C判定)
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	本施設の目的である「労働者の福祉の増進に寄与すること」は現在においても重要である。一方で、築40年を越え老朽化が深刻化していて、改修の必要がある。しかし、60%を超える当施設の利用率は立地条件の良さに寄るところが大きい。現地と同程度の立地条件先への移転は困難と思われるので、第2段階においては移転・売却とされたが、継続・改修が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

老朽化に伴う施設の不具合箇所の解消に努める必要がある施設

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	161115012001	施設名称	勤労者総合会館(県分)	外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	中部県民生活センター	
	用途	貸館施設	設置年	1985	
	施設目的	労働者の福祉の増進に寄与すること			
	敷地面積	782.99 m ²	延床面積	2,683.48 m ²	内部
	土地台帳価格	260,468 千円	建物台帳価格	412,078 千円	
	用途地域	商業地域	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:JR静岡駅から 徒歩7分 タクシー3分			

◆ 第1段階 **B2** 品質 2.10点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	31.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1985.0年 1.00点
		外壁	2007.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2007.0年 3.00点
		受変電設備	1985.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.15GJ (49.21)	2.00点
供給	稼働率	54.3%	2.00点
財務	コスト/人	193円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	15,943円 (62.79)	1.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	679	百万円	維持管理費 B(※2)	614	百万円
	使用年数 A(※1)	31.0	年	小計	1,293	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	77	百万円	維持管理費 (※3)	198	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	275	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	155	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,040	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,695	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	指定管理者制度適用施設(協定期間は5年間)平成27年度～平成31年度
現在の利用状況	施設の老朽化等により、10年前と比べ、利用率は6%弱の減となっている。(施設内にある静岡労政会館の利用率)
これまでの保全の状況	自動火災報知設備改修工事(平成27年度) エレベーターが劣化(C判定)しており、平成28年度に改修工事を実施予定
その他	静岡県、静岡県労働金庫、(公財)静岡県労働者福祉基金協会の3者が区分所有する建物である。

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	本施設の目的である「労働者の福祉の増進に寄与すること」は現在においても重要である一方で、築30年を過ぎ、施設の老朽化も各所に目立ってきたことから、第2段階の結果のとおり改善・改修が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

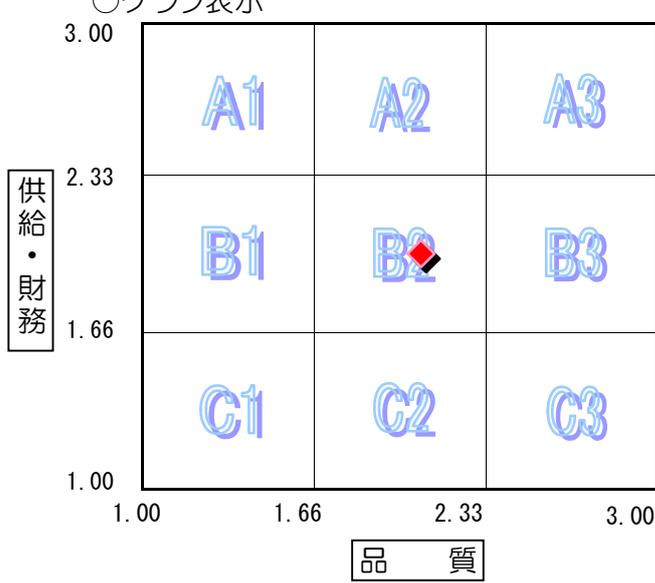
基本情報	施設番号	161117012002	施設名称	浜松労政会館		外部
	財産管理者	経済産業部	財産事務取扱者	西部県民生活センター		
	用途	貸館施設		設置年	1994	
	施設目的	労働者の福祉の増進に寄与すること				
	敷地面積	0.00 m ²		延床面積	832.64 m ²	
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	159,997 千円	
	用途地域	指定なし		路線価	79,000 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: JR浜松駅から バス10分				

◆ 第1段階 B2 品質 2.15点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

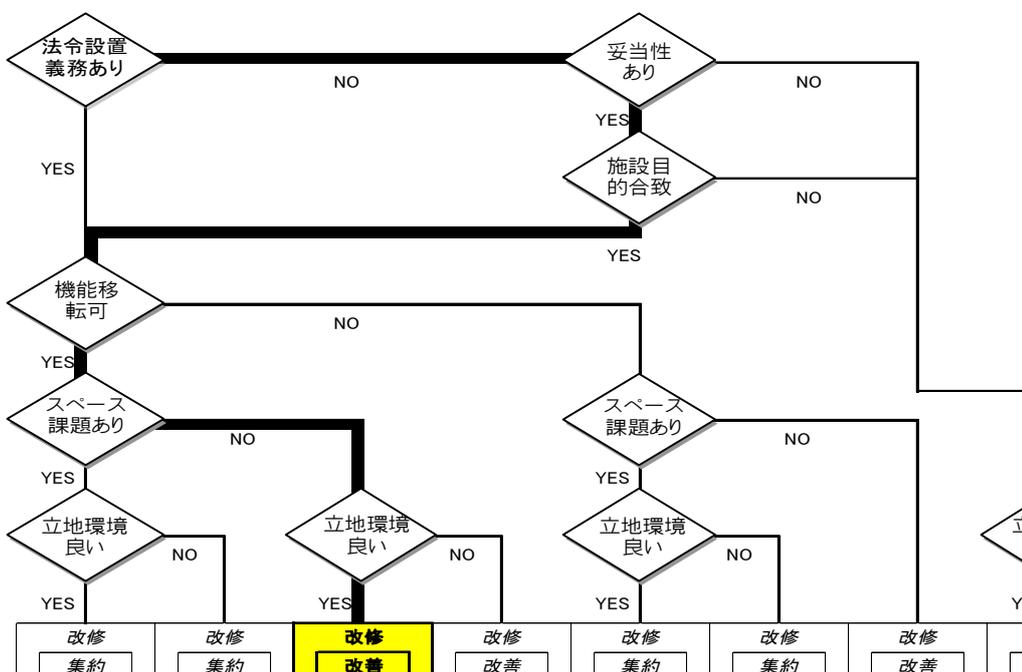
品質	建築後経過年数	22.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1994.0年 1.00点
		外壁	2011.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2009.0年 3.00点
		受変電設備	1994.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.32GJ (57.53)	3.00点
供給	稼働率	59.5%	2.00点
財務	コスト/人	117円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	13,277円 (58.97)	1.00点

○グラフ表示



品質: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00
供給・財務: 1.00, 1.66, 2.33, 3.00

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	348	百万円	維持管理費 B(※2)	223	百万円
	使用年数 A(※1)	22.0	年	小計	571	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	24	百万円	維持管理費 (※3)	101	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	125	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	48	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	323	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	526	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	指定管理者制度適用施設(協定期間は5年間)平成27年度～平成31年度
現在の利用状況	夜間より昼間の利用が多い。 土日の利用はあるが、祝日の利用が低迷している。
これまでの保全の状況	空調設備改修工事(平成27年度)
その他	浜松商工会議所会館の6階部分を区分所有。(負担金、借地料を浜松商工会議所に支出。)ただし、浜松労政会館用の駐車場は県有地

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	本施設の目的である「労働者の福祉の増進に寄与すること」は現在においても重要である一方で、築20年を過ぎ、今後施設の改修も想定されることから、第2段階の結果のとおり改善・改修が妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。
----	---

施設アセスメントシート

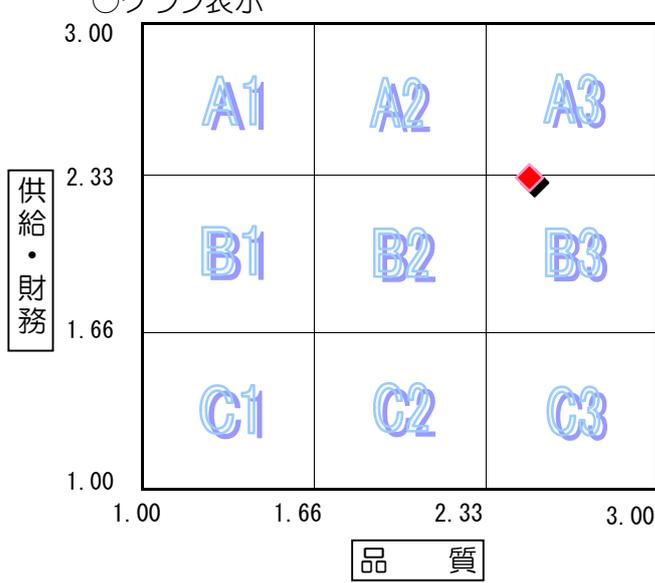
基本情報	施設番号	161300012001	施設名称	コンベンションアーツセンター	外部 
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	文化政策課	
	用途	貸館施設	設置年	1998	
	施設目的	学術、文化及び芸術の振興並びに国内外との交流を図るため			内部 
	敷地面積	139,745.36 m ²	延床面積	60,630.00 m ²	
	土地台帳価格	21,271,433 千円	建物台帳価格	35,606,523 千円	
	用途地域	商業地域	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: JR東静岡駅から 徒歩3分			

◆ 第1段階 A3 品質 2.60点 供給・財務 2.33点

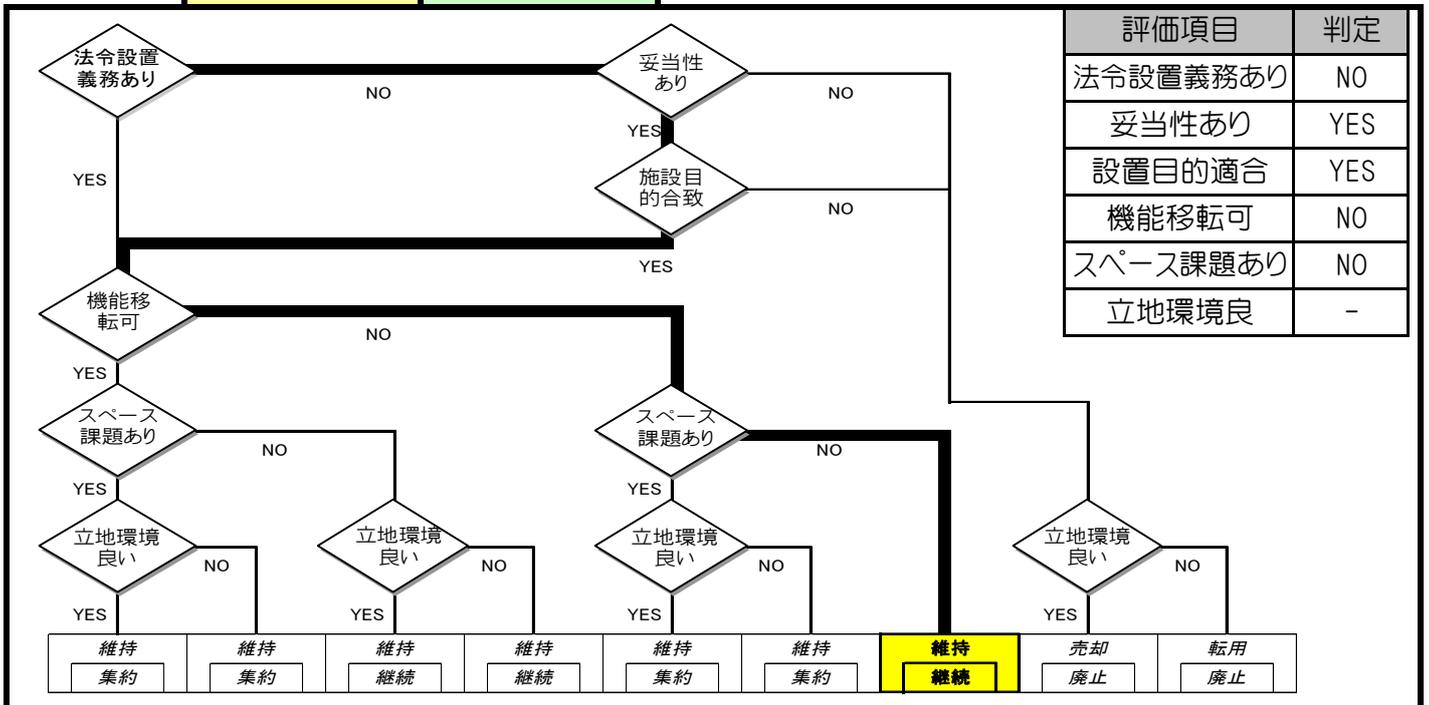
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	18.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水 1998.0年	2.00点
		外壁 1998.0年	2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備 2013.0年	3.00点
		受変電設備 1998.0年	2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.58GJ (44.85)	1.00点
供給	稼働率	85.2%	3.00点
財務	コスト/人	1,538円 (41.47)	3.00点
財務	コスト/面積	17,345円 (64.80)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 継続



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	49,385	百万円	維持管理費 B(※2)	4,048	百万円
	使用年数 A(※1)	18.0	年	小計	53,433	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	3,494	百万円	維持管理費 (※3)	2,249	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	5,743	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	3,494	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	23,502	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	38,296	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	施設全体の稼働率はH16年度以降80%を超えている。(休館のあったH26年度は79.2%)
これまでの保全の状況	別紙の通り
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	第2段階の評価(運用面:継続、施設面:維持)は妥当であると考えます。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設

○これまでの保全状況

【劣化状況】

診断年度	対象ファシリティ	状況	判定	処理
H25	天然スレート	剥落	C	H26完了
	トップライト	雨漏り	C	随時修理
	鉄部塗装	さび	C	検討中
	露出配管	上階からの水かかり	C	随時修理
	PC外壁	雨漏り痕	C	検討中
	コンクリート打ち放し	白華	C	検討中
	フリーアクセスフロア	鋼製束のさび	C	検討中
	中ホール舞台装置	ロープの経年劣化	C	検討中
	蓄電池BT-1	使用期限経過	C	H26完了
	蓄電池BT-2	使用期限経過	C	検討中
	蓄電池BT-3	使用期限経過	C	検討中
	蓄電池BT-4	使用期限経過	B	検討中
	電灯分電盤(屋外)	絶縁劣化	C	使用中止
	電灯分電盤(屋内)	絶縁劣化	C	経過観察中
	照明中央監視装置更新	故障中	C	H26完了
	舞台照明	保守部品がない	B(C)	経過観察中
	客席誘導灯	点灯不良あり	C	H24完了
	通路誘導灯	点灯不良あり	C	H26完了
	舞台音響設備	経年劣化	C	H26完了
	ITV設備	画像不鮮明	C	随時修理
	中央監視装置(総合)	保守部品がない	B(C)	経過観察中
	エアハンドリングユニット	経年劣化	B(C)	経過観察中
	ヒートポンプ式エアコン	経年劣化	B(C)	経過観察中
	スプリンクラー設備	電磁弁動作不良	C	経過観察中
	中央監視装置(空調)	経年劣化	B(C)	H28計画

【主な修繕履歴(過去5ヵ年)】

年度	対象ファシリティ	金額
H27	H27電話交換機	31,104,000
	防犯・入退室管理システム	57,547,800
H26	H26スレート安全対策改修	859,950,000
	大ホール音響設備更新	176,040,000
	中、小ホール音響設備更新	267,840,000
	照明中央監視装置更新	84,360,960
	コジェネ制御盤更新	60,480,000
	階段誘導灯更新(2期)	24,550,560
	コジェネエンジンOH	32,891,400
	蓄電池BT-1更新	2,916,000
	芸術劇場袖壁改修	17,928,000
H25	小ホール舞台吊物機構電気ケーブル更新	14,675,850
	熱源設備ポンプ	40,801,950
	階段誘導灯更新(1期)	41,082,300
H24	小ホール舞台機構制御盤他更新	7,092,750
	大ホール舞台吊物機構電気ケーブル更新(2期)	42,367,500
	誘導灯更新	17,461,500
H23	大ホール舞台吊物機構電気ケーブル更新(1期)	23,100,000
	中ホール舞台機構制御盤修繕	20,947,500
	エスカレーター3,4号機転落防止フェンス設置	13,650,000

施設アセスメントシート

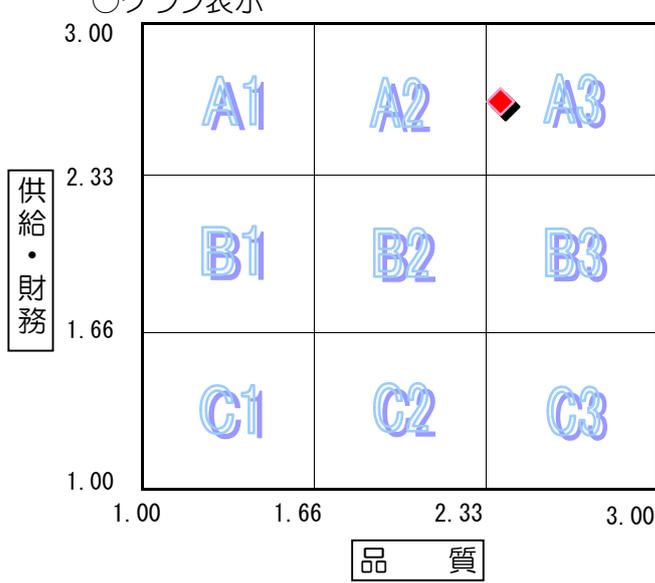
基本情報	施設番号	161300012003	施設名称	舞台芸術公園		外部 	
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	文化政策課			
	用途	集客施設		設置年	1997		
	施設目的	本県の舞台芸術振興と、県民文化の向上に寄与することを目的に、世界に通用する舞台芸術を創造するとともに、舞台芸術の発展に必要な人材の育成等を図るため					内部 
	敷地面積	194,884.40 m ²		延床面積	6,018.11 m ²		
	土地台帳価格	4,449,211 千円		建物台帳価格	761,700 千円		
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR東静岡駅から バス12分					

◆ 第1段階 A3 品質 2.48点 供給・財務 2.67点

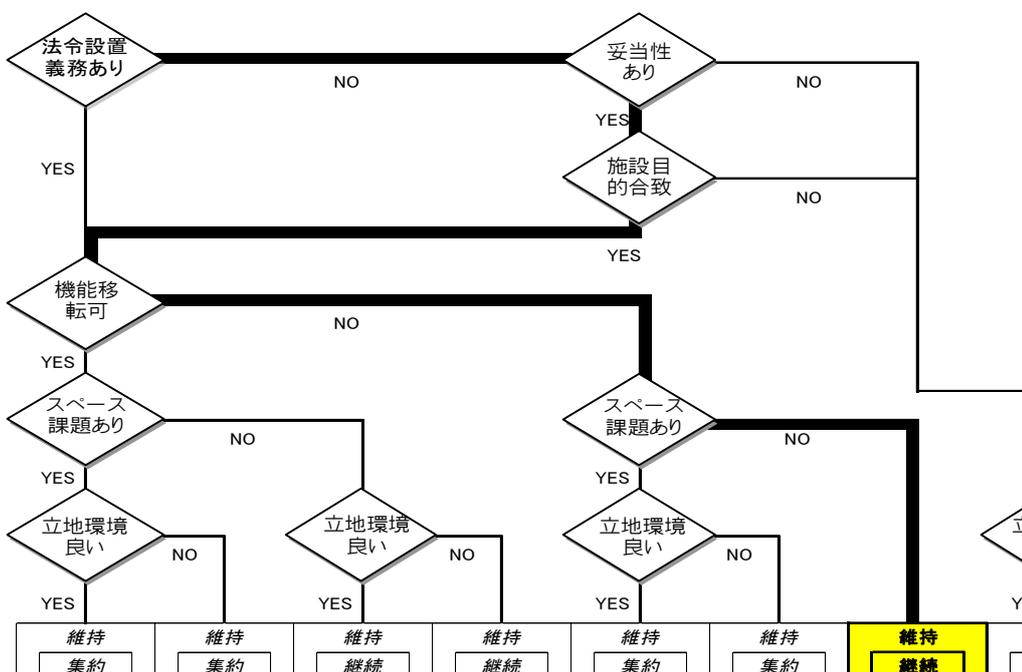
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	19.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2014.0年 0.26点
		外壁	2007.6年 2.81点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2006.1年 2.56点
		受変電設備	1998.8年 1.67点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.68GJ (53.94)	2.00点
供給	稼働率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	1,799円 (41.48)	3.00点
財務	コスト/面積	5,168円 (47.36)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,051	百万円	維持管理費 B(※2)	486	百万円
	使用年数 A(※1)	19.0	年	小計	3,537	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	347	百万円	維持管理費 (※3)	256	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	603	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	347	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,499	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	4,078	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	普段は、公園については、一般来園者が散策に訪れ(団体受け入れ(視察、遠足等)もある。)、劇場、稽古場、宿泊棟の施設については、SPACが稽古等のため利用している。 公演時には多くの観客が訪れるため、場合によっては日本平パークウェイから入る駐車場は満杯となるが、公園内の空きスペースが臨時に駐車場として利用可能であるため、利用者への影響はない。
これまでの保全の状況	平成27年度劣化診断C判定(アトリエ棟トプライト建具雨漏り、稽古場棟1階天井雨漏り、野外劇場前広場床石・同側道擁壁モルタル剥離、本部棟屋上外壁損傷・同電気設備等劣化など)
その他	同公園の建物についてはSPACの専用施設であることから、SPAC公演を円滑に実施するため、修繕等についてはSPACの公演の開催にあわせて柔軟に執行している。

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	本施設は、静岡県の舞台芸術の振興による県民文化の向上を目指す拠点施設として整備され今後も継続的に本役割を担う責務がある。また、建築物等においては築約20年を経て老朽化が目立つようになってきたため修繕等を必要に応じて行う必要があるものの、現時点では施設全体としての大規模改修等までの計画はないため、第2段階のとおり、継続・維持とするのが妥当とする。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状況及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	161500012002	施設名称	猪之頭観光施設		外部 
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	観光政策課		
	用途	集客施設	設置年	1993		
	施設目的	公園利用者のための休憩所及び公衆トイレ				内部 
	敷地面積	100,229.16 m ²	延床面積	667.85 m ²		
	土地台帳価格	239,419 千円	建物台帳価格	19,200 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR富士宮駅から バス1時間				

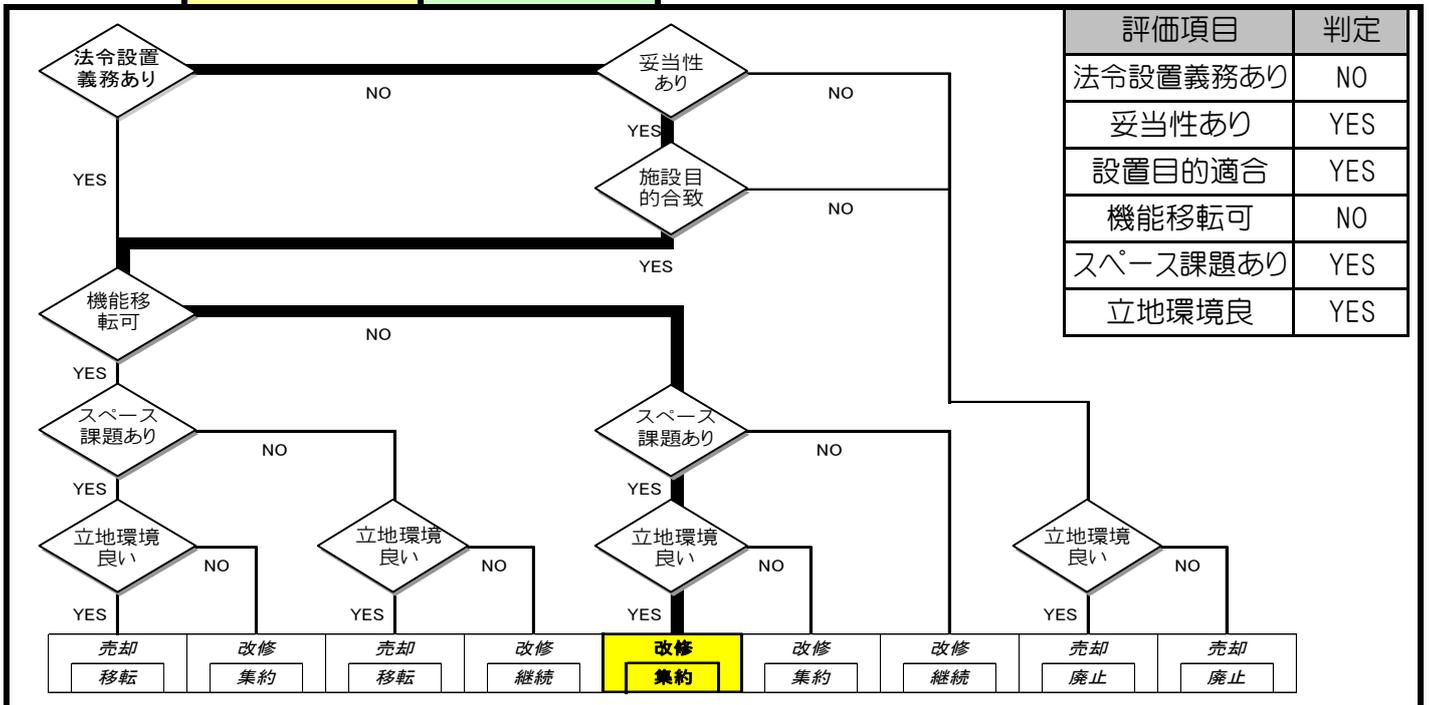
◆ 第1段階 **A1** 品質 1.59点 供給・財務 3.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	38.3年	1.62点
品質	建築劣化度	屋上防水	1977.7年 1.00点
		外壁	1977.7年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1990.1年 2.24点
		受変電設備	1977.7年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 2.24点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	利用者数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	571円 (40.78)	3.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 **施設面: 改修** **運用面: 集約**



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	241	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	38.3	年	小計	241	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	38	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	152	百万円
	解体費	6	百万円	小計	196	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	38	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	277	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	453	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	(新) 鱒の家は運営者がいない(決まっていない)ため、未利用の状態である。
これまでの保全の状況	(新) 鱒の家:H25空調設備改修工事(約700万円)
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	(新) 鱒の家は行政財産使用許可申請者等より活用の案が提案されているため、継続する。 他施設は公園利用者による需要があるため、継続する。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設
----	---

施設アセスメントシート

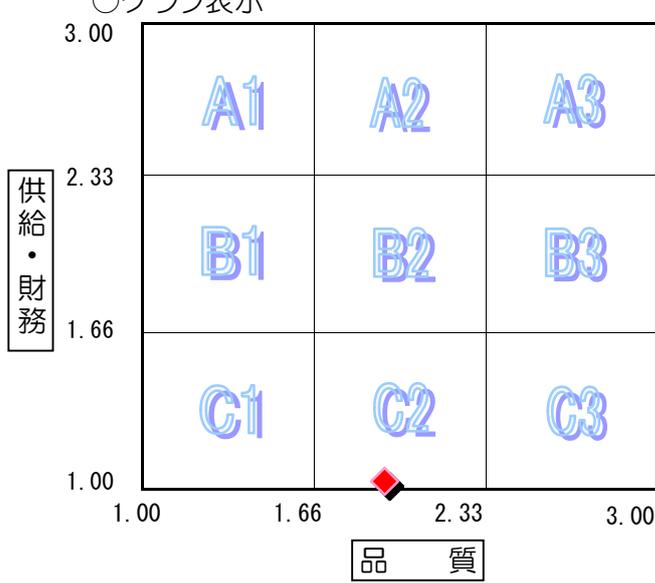
基本情報	施設番号	161500012014	施設名称	達磨山観光施設		外部 
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	観光政策課		
	用途	集客施設	設置年	1990		
	施設目的	キャンプ場および見晴台のためのレストハウス				内部 
	敷地面積	0.00 m ²	延床面積	312.60 m ²		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	12,461 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:修善寺駅から バス30分				

◆ 第1段階 C2 品質 2.00点 供給・財務 1.00点

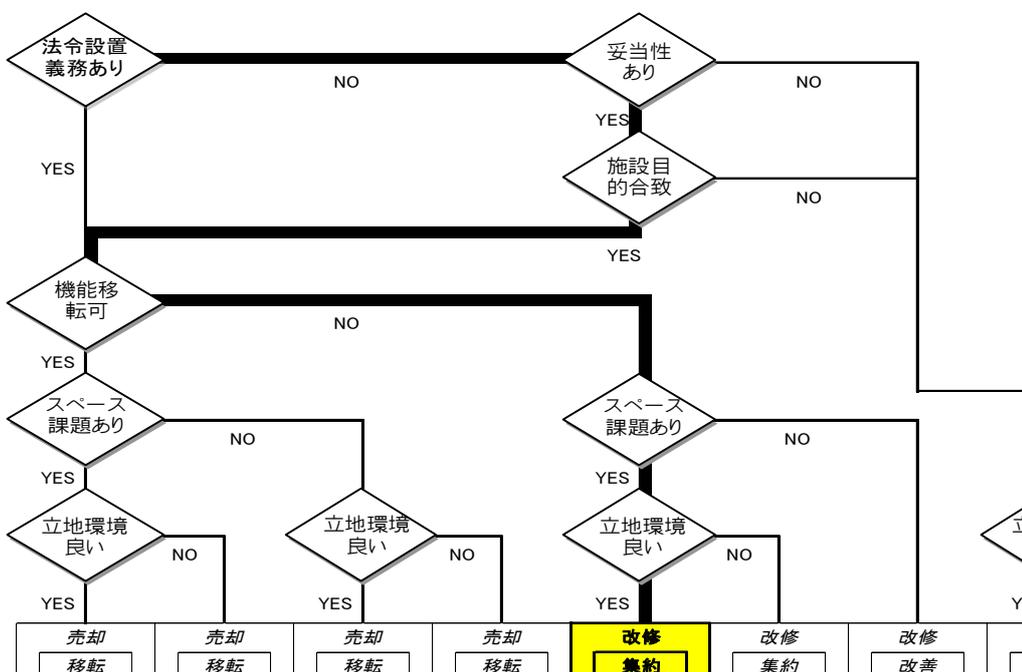
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	26.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
		外壁	1990.0年
品質	設備劣化度	空気調和設備	2012.0年
		受変電設備	1990.0年
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	利用者数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	11,898円 (57.00)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	120	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	26.0	年	小計	120	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	18	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	18	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	18	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	130	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	212	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	利用者数は年々若干の減少傾向はあるものの安定した利用がされている。
これまでの保全の状況	H27多目的トイレ新築(約700万円)
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	当面は継続。なお、施設運営について管理委託先である伊豆市と民間活用の可能性を協議中。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設
----	---

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	161500012015	施設名称	聖平小屋		外部 
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	観光政策課		
	用途	集客施設	設置年	1991		
	施設目的	南アルプス登山者のための宿泊所及び公衆トイレ				
	敷地面積	0.00 m ²	延床面積	259.01 m ²		内部 
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	0 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:-から ---				

◆ 第1段階 A2 品質 1.76点 供給・財務

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	25.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
		外壁	1991.0年
品質	設備劣化度	空気調和設備	1991.0年
		受変電設備	1991.0年
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	利用者数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	85	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	25.0	年	小計	85	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	15	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	15	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	15	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	108	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	176	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	天候等により登山客利用に増減はあるものの、安定した利用がされている。
これまでの保全の状況	H28修繕工事予定
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	登山客にとって必要な施設であり、安定した利用があるため、継続とする。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	161500012031	施設名称	田貫湖キャンプ場		外部 
	財産管理者	文化・観光部	財産事務取扱者	観光政策課		
	用途	集客施設		設置年	1989	
	施設目的	キャンプ場利用者のためのレストハウス、公衆トイレ、炊飯棟				内部 
	敷地面積	0.00 m ²	延床面積	246.77 m ²		
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	0 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR富士宮駅から バス1時間				

◆ 第1段階 **C2** 品質 1.76点 供給・財務 1.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	27.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	-
		外壁	1989.0年
品質	設備劣化度	空気調和設備	1989.0年
		受変電設備	1989.0年
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	利用者数	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	13,996円 (60.00)	1.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 **施設面: 改修** **運用面: 集約**

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	YES
立地環境良	YES

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	35	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	27.0	年	小計	35	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	14	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	14	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	14	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	102	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	167	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	安定した利用がされている。
これまでの保全の状況	H29トイレ、炊飯棟、レストハウス修繕工事予定(H28設計)
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	公園利用者による安定した利用があるため継続とする。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、スペースの活用に課題があるため、他の機能を取り込む等、集約を図る必要がある施設
----	---

施設アセスメントシート

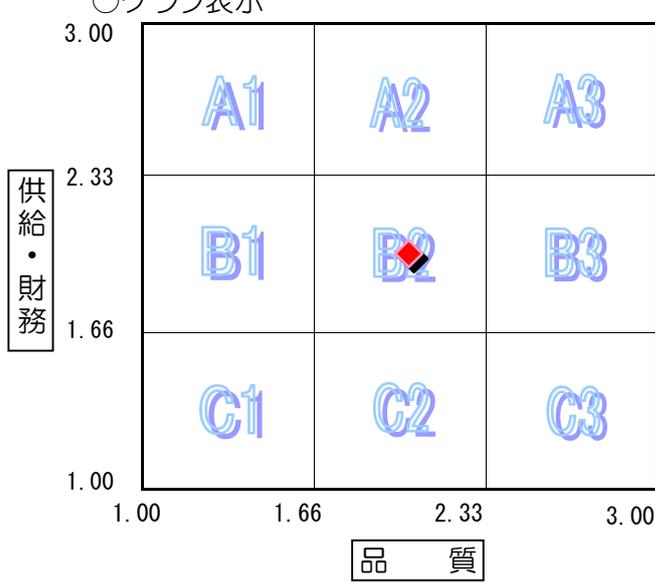
基本情報	施設番号	163200012001	施設名称	男女共同参画センター		外部 
	財産管理者	くらし・環境部	財産事務取扱者	男女共同参画課		
	用途	貸館施設		設置年	1992	
	施設目的	男女共同参画推進の拠点				内部 
	敷地面積	2,069.32 m ²	延床面積	9,975.59 m ²		
	土地台帳価格	422,088 千円	建物台帳価格	2,171,890 千円		
	用途地域	近隣商業地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅から 徒歩9分				

◆ 第1段階 B2 品質 2.10点 供給・財務 2.00点

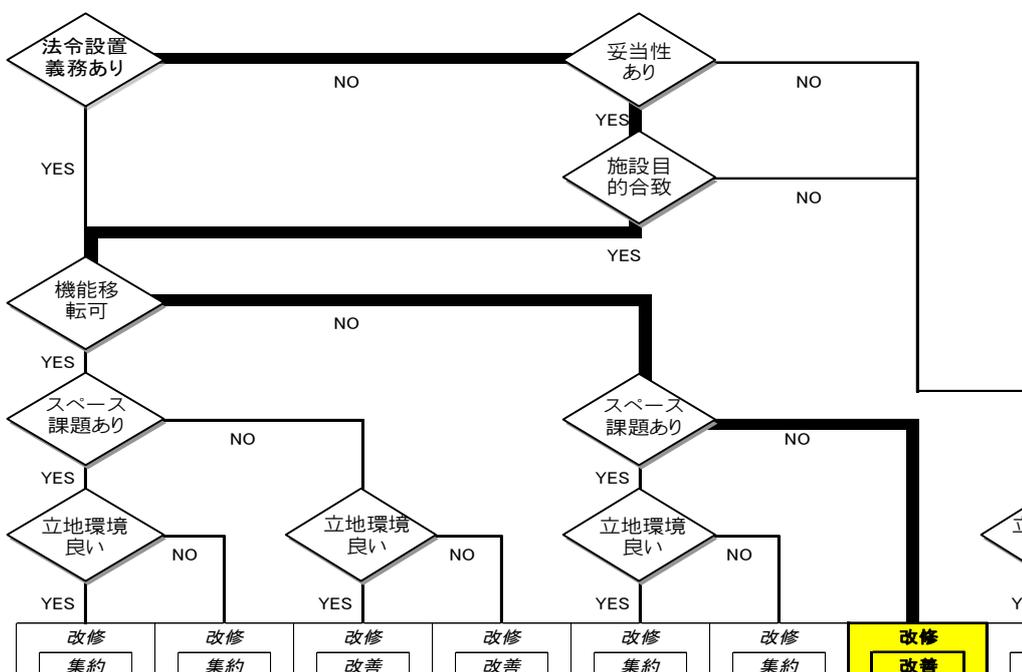
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	24.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1992.0年 1.00点
		外壁	2015.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2011.0年 3.00点
		受変電設備	1992.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.89GJ (51.82)	2.00点
供給	稼働率	47.4%	2.00点
財務	コスト/人	471円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	10,655円 (55.22)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,566	百万円	維持管理費 B(※2)	1,443	百万円
	使用年数 A(※1)	24.0	年	小計	5,009	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	575	百万円	維持管理費 (※3)	601	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,176	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	575	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	3,867	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	6,301	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	過去5年(H23～H27)の利用率は、若干の減少傾向にあるが平均75%を超えている。特殊施設については、利用形態が限定されることから、利用率は50～60%前後を推移している。
これまでの保全の状況	H27劣化診断結果では、C判定箇所が15項目あった。そのうち、改善又は改善予定のものは9項目あり、残る6項目についても中期保全計画を立て、今後5年程度で対応する予定である。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	当該施設は、築23年を迎え今後老朽化が進むことを視野に、計画的な修繕が必要となるが、男女共同参画推進の拠点機能は、今後も不可欠であるため、第2段階の結果のとおり、改善・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

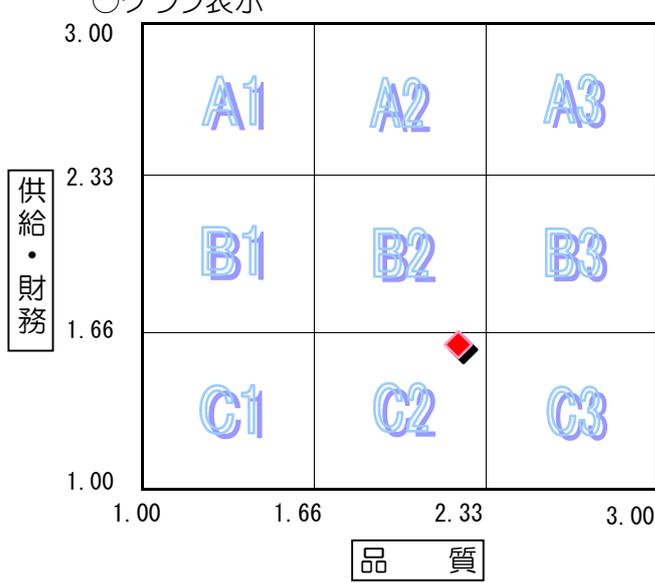
基本情報	施設番号	191101011001	施設名称	環境衛生科学研究所		外部
	財産管理者	くらし・環境部	財産事務取扱者	環境衛生科学研究所		
	用途	研究施設		設置年	1982	
	施設目的	静岡県の環境と県民の健康を守るための調査研究、試験検査、常時監視・測定その他の業務の執行				
	敷地面積	8,590.16 m ²	延床面積	5,920.14 m ²		内部
	土地台帳価格	1,259,379 千円	建物台帳価格	957,120 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: 静岡駅から バス15分				

◆ 第1段階 C2 品質 2.31点 供給・財務 1.60点

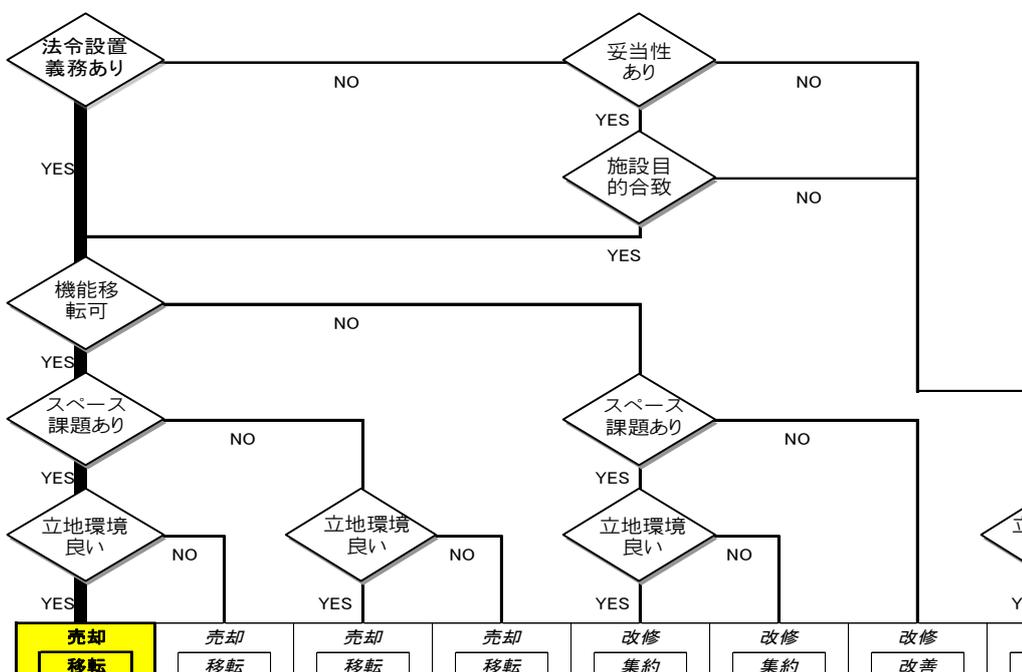
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	33.4年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2003.6年 2.09点
		外壁	2012.7年 2.82点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2010.9年 2.82点
		受変電設備	2010.0年 2.82点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	2.23GJ (38.26)	1.00点
供給	面積/人数	33.52m ² (44.20)	2.00点
財務	コスト/人	1,670,572円 (71.92)	1.00点
財務	コスト/面積	21,415円 (70.62)	1.00点
財務	収入/人	537円 (54.32)	2.00点
財務	支出/人	1,338円 (52.56)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 売却 運用面: 移転



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良い	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,695	百万円	維持管理費 B(※2)	858	百万円
	使用年数 A(※1)	33.4	年	小計	2,553	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	171	百万円	維持管理費 (※3)	257	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	428	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	341	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,579	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	4,213	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	移転計画あり
現在の利用状況	研究機関として稼働している
これまでの保全の状況	H23 耐震補強工事 10,315万円 H24 受変電設備更新工事 9,092万円 H25 吸収式冷温水発生機他更新工事 11,340万円 H26 環境衛生科学研究所外壁改修工事 5,270万円
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	移転の計画あり
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足

現行計画(移転建て替え)に沿って、移転・売却を図っていく施設。

施設アセスメントシート

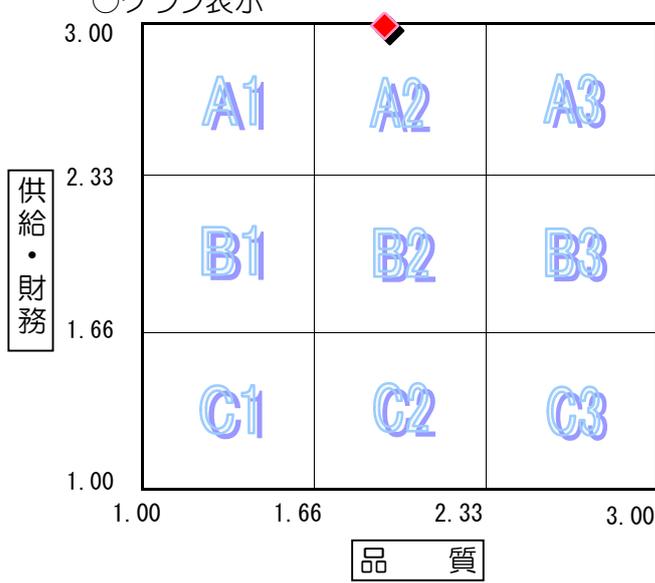
基本情報	施設番号	191500013004	施設名称	昭和の森		外部 
	財産管理者	くらし・環境部	財産事務取扱者	環境ふれあい課		
	用途	集客施設		設置年	1980	
	施設目的	天城山を中心とした自然情報の発信と森林を中心とした学習機能				内部 
	敷地面積	0.00 m ²		延床面積	1,295.15 m ²	
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	241,953 千円	
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:修善寺駅から バス35分				

◆第1段階 A2 品質 2.00点 供給・財務 3.00点

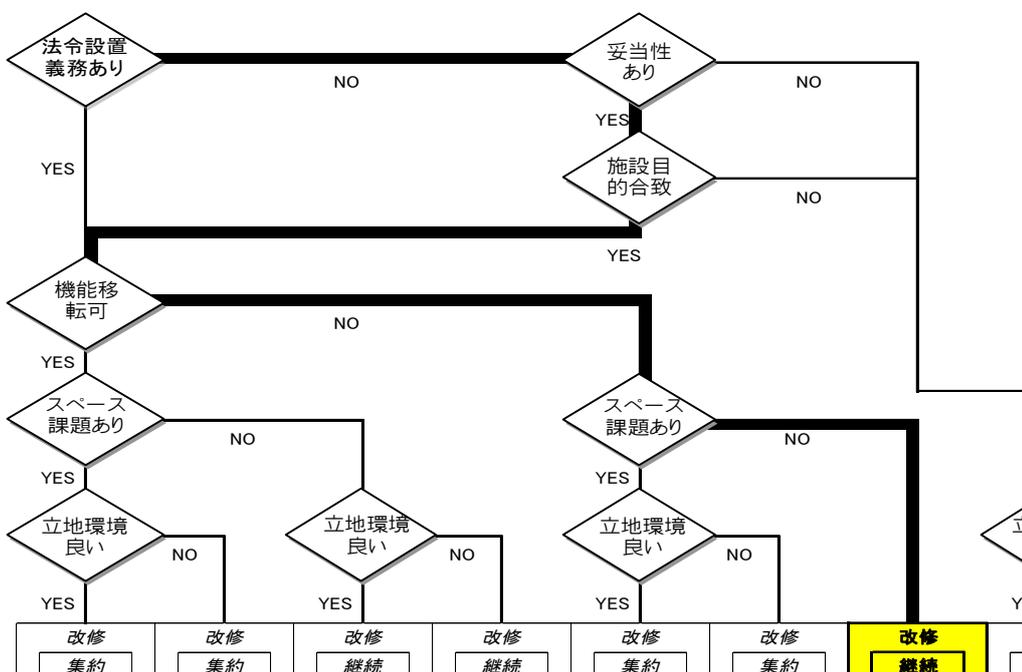
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	36.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2012.0年 3.00点
		外壁	1993.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1993.0年 1.00点
		受変電設備	2004.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	稼働率	99.5%	3.00点
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	-	-

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	432	百万円	維持管理費 B(※2)	0	百万円
	使用年数 A(※1)	36.0	年	小計	432	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	75	百万円	維持管理費 (※3)	0	百万円
	大規模改修費	463	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	538	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	75	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	538	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	878	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	市観光施設が併設されており、道の駅にも位置づけられていることから、特に休日は混雑している。
これまでの保全の状況	経年劣化により、建具の腐食や電気設備の更新が必要となっている(劣化診断C判定)。H24には屋根の防水工事を実施(約250万円)。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては築35年を越え老朽化が深刻化している。また、建物敷以外は、自然に親しむ施設として利用しているため、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足	施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設。 ※敷地が広大であるが、施設用途として必要な面積であるため、スペースの課題あり「NO」とする。
----	--

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	211101011101	施設名称	賀茂健康福祉センター松崎保健支援室	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	賀茂健康福祉センター	
	用途	庁舎等	設置年	1980	
	施設目的	西伊豆町・松崎町の保健衛生の申請・相談・対応窓口			
	敷地面積	1,984.65 m ²	延床面積	786.65 m ²	内部
	土地台帳価格	108,022 千円	建物台帳価格	106,538 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: 稲梓駅から 徒歩10分 バス33分			

◆ 第1段階 B2 品質 1.95点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	36.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1980.0年 1.00点
		外壁	1980.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2012.0年 3.00点
		受変電設備	1980.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.19GJ (60.73)	3.00点
供給	面積/人数	21.00m ² (69.11)	1.00点
財務	コスト/人	201,146円 (45.11)	2.00点
財務	コスト/面積	1,534円 (42.16)	3.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良	NO

◆第3段階

コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	206	百万円	維持管理費 B(※2)	27	百万円
	使用年数 A(※1)	36.0	年	小計	233	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	45	百万円	維持管理費 (※3)	8	百万円
	大規模改修費	182	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	235	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	45	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	228	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	368	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	無(支所・駐在については、行財政改革大綱や行財政改革推進委員会の意見を踏まえ、県行政を取り巻く状況の変化を踏まえ、市町等の連携などの視点に立ち、あり方の見直しについて検討を続けている。)
現在の利用状況	賀茂健康福祉センター管内のうち、西伊豆町・松崎町の県民が保健衛生の申請・相談等を行う窓口として利用。
これまでの保全の状況	平成25年度浄化槽の補修工事(約182万円)
その他	

財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては築35年以上が経過し各所に老朽化が認められる。また、設置箇所は、津波浸水域であることから、集約・改修を含め、行政サービスが引き続き確保できる対応を検討していく。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	施設の老朽化、スペースの課題等から集約・改修を検討していく必要がある施設であるが、津波浸水域に立地することから、移転・売却も合わせて検討していく必要がある施設。
----	--

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	211105011201	施設名称	東部健康福祉センター一時保護所		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	東部健康福祉センター		
	用途	福祉施設	設置年	2004		
	施設目的	緊急に保護を要する児童を一時保護する施設				内部
	敷地面積	1,294.86 m ²	延床面積	762.58 m ²		
	土地台帳価格	127,451 千円	建物台帳価格	60,584 千円		
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	-				

◆ 第1段階 A3 品質 2.85点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	12.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2013.0年 3.00点
		外壁	2004.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.0年 3.00点
		受変電設備	2011.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.04GJ (50.30)	2.00点
供給	入居率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	249,444円 (45.99)	2.00点
財務	コスト/面積	4,579円 (46.52)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	82	百万円	維持管理費 B(※2)	3	百万円
	使用年数 A(※1)	12.0	年	小計	85	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	44	百万円	維持管理費 (※3)	3	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	47	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	44	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	232	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	376	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	緊急に保護を要する児童を一時保護しているため、365日24時間常に利用されている。
これまでの保全の状況	過去3年間の修繕工事実績(畳表替え、雨漏り修繕、業務用及び家庭用エアコン一部取替、グラウンド砂入れ、ブラインド修繕、水回り修繕工事、蛍光灯安定器交換工事)
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	継続。児童福祉法において、児童相談所は必要に応じて児童を一時保護する施設を設けなければならないとされている。被虐待児や要保護児童などを日中・夜間なく一時保護するためには一時保護所を設ける必要がある。
上を裏付ける根拠(ある場合)	児童福祉法第12条の4

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足	施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。
----	--------------------------------------

施設アセスメントシート

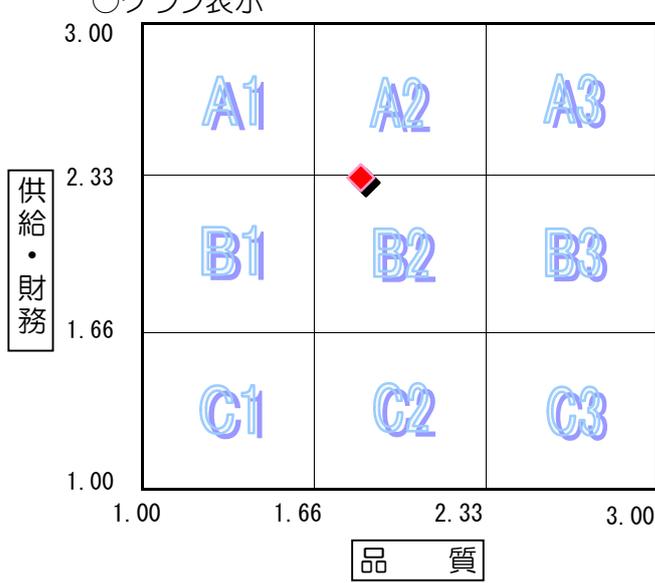
基本情報	施設番号	211107011004	施設名称	御殿場健康福祉センター 御殿場合同庁舎	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	御殿場健康福祉センター	
	用途	庁舎等	設置年	1995	
	施設目的	県合同庁舎			
	敷地面積	9,641.45 m ²	延床面積	2,280.57 m ²	
	土地台帳価格	190,901 千円	建物台帳価格	545,487 千円	
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: JR南御殿場駅から 徒歩8分			

◆ 第1段階 A2 品質 1.90点 供給・財務 2.33点

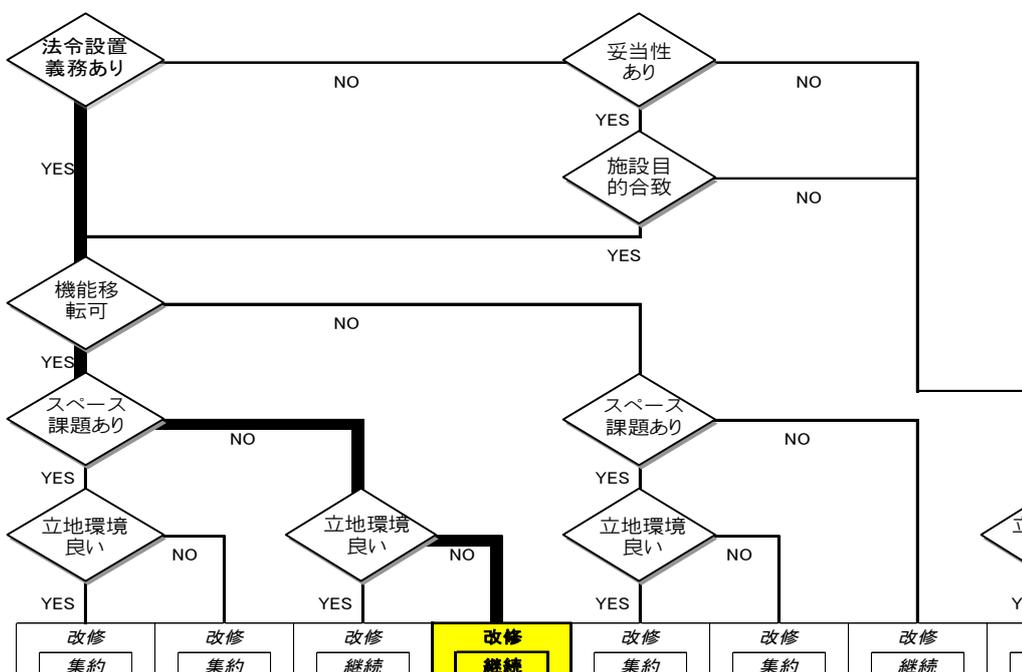
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	21.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1995.0年 1.00点
		外壁	1995.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2014.0年 3.00点
		受変電設備	1995.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.60GJ (48.95)	2.00点
供給	面積/人数	14.16m ² (53.68)	3.00点
財務	コスト/人	211,424円 (45.30)	2.00点
財務	コスト/面積	3,986円 (45.67)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	844	百万円	維持管理費 B(※2)	94	百万円
	使用年数 A(※1)	21.0	年	小計	938	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	131	百万円	維持管理費 (※3)	45	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	176	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	131	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	660	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,066	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	御殿場健康福祉センターの本所として、御殿場・小山地域の行政サービスを提供するために利用。
これまでの保全の状況	修繕が必要な箇所が発生した時に、その都度修繕を実施
その他	平成27年4月に受けた劣化診断の結果をもとに、必要な営繕工事を5年程度で計画した「中期維持保全計画」を、今年度から実施中。

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては築20年を経過して、空調や照明等電気機器類及び消防設備について故障しても交換部品がないなど、機器全体の更新の必要性が発生している。これらを計画的に修繕・更新していくことで施設の長寿命化を図ることは可能なので、第2段階の結果のとおり、継続・改修とすることが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。

施設アセスメントシート

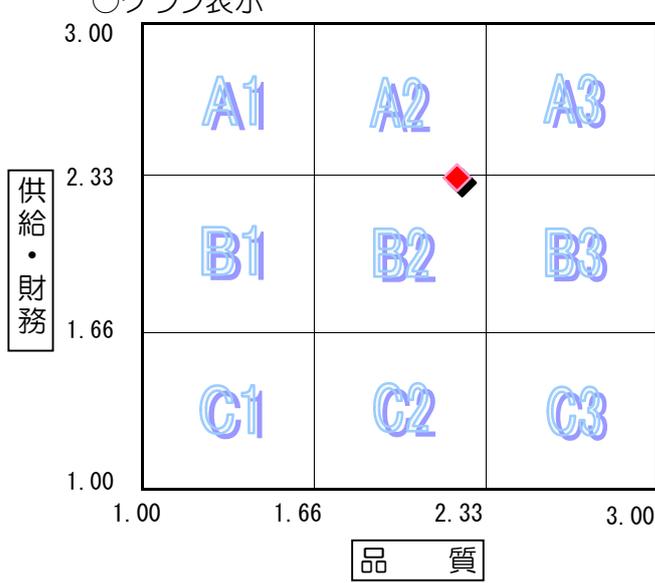
基本情報	施設番号	211109011101	施設名称	富士健康福祉センター富士宮分行舎	外部	
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	富士健康福祉センター		
	用途	庁舎等	設置年	1983		
	施設目的	食品関係の申請・相談・対応窓口				
	敷地面積	1,987.22 m ²	延床面積	1,026.11 m ²		内部
	土地台帳価格	129,737 千円	建物台帳価格	130,337 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:富士宮駅から バス10分 徒歩3分				

◆第1段階 A2 品質 2.30点 供給・財務 2.33点

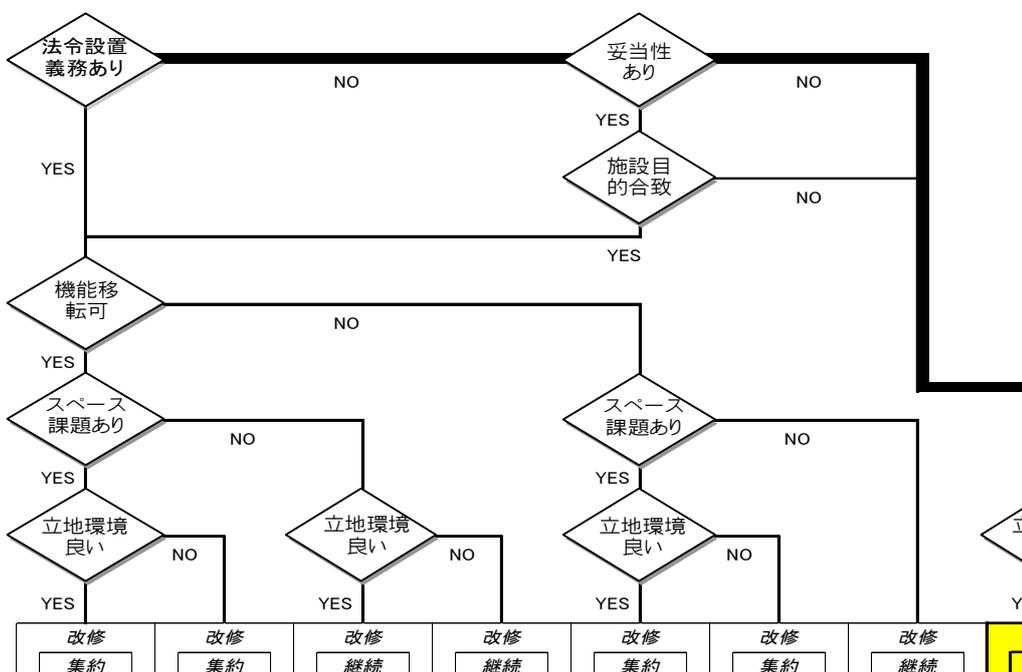
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	33.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1983.0年 1.00点
		外壁	2006.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2015.0年 3.00点
		受変電設備	2010.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.40GJ (54.86)	2.00点
供給	面積/人数	17.86m ² (62.02)	1.00点
財務	コスト/人	140,117円 (44.00)	3.00点
財務	コスト/面積	2,868円 (44.07)	3.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 売却 運用面: 廃止



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	228	百万円	維持管理費 B(※2)	44	百万円
	使用年数 A(※1)	33.0	年	小計	272	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	30	百万円	維持管理費 (※3)	13	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	43	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	59	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	297	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	480	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	無(行財政改革大綱や行財政改革推進委員会の意見を踏まえ、駐在を廃止した。現在は、激変緩和措置として、出張窓口を設置している。)
現在の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・食品関係の申請、相談の出張窓口(平日 9:15~16:15)として本所より職員1名が出張、非常勤職員1名が常駐している(駐在前と比べ、受付件数に大きな変化は無い)。 ・指定難病更新申請の臨時出張窓口(6/13~7/8 平日 9:30~16:00)を開設している。 ・余裕床の有効利用のため、富士宮商工会議所へ貸付している。
これまでの保全の状況	冷暖房機溶液循環ポンプ・電磁開閉器取替工事(H11)、外壁タイル破損部分取替え及びコーキングの打ち直し(H13)、非常用照明蓄電池取替工事(H19)、VCB取替及びSOG取付工事(H22)
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	駐在を廃止したため、第2段階の結果のとおり、廃止・売却とすることは止むを得ないが、現在設置している出張窓口の今後のあり方に留意する必要がある。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **売却**

運用面: **廃止**

補足	機能は廃止されているため、条件等を整備し、売却処分を検討する必要がある施設。
----	--

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	211113011001	施設名称	中部健康福祉センター岡出山庁舎	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	中部健康福祉センター	
	用途	庁舎等	設置年	1979	
	施設目的	児童相談所:児童福祉に関する業務の実施 細菌検査課:県民の健康と安全を守るため、食中毒原因菌の検査、感染症検査の実施			
	敷地面積	2,272.15 m ²	延床面積	1,565.55 m ²	内部
	土地台帳価格	180,798 千円	建物台帳価格	104,579 千円	
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:藤枝駅から バス10分 徒歩5分			

◆ 第1段階 **B3** 品質 2.50点 供給・財務 1.67点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	37.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2013.0年 3.00点
		外壁	2014.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2012.0年 3.00点
		受変電設備	2012.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.55GJ (50.33)	2.00点
供給	面積/人数	7.69m ² (39.07)	1.00点
財務	コスト/人	214,568円 (45.36)	2.00点
財務	コスト/面積	4,386円 (46.24)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 **施設面: 維持** **運用面: 改善**

評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	254	百万円	維持管理費 B(※2)	98	百万円
	使用年数 A(※1)	37.0	年	小計	352	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	90	百万円	維持管理費 (※3)	26	百万円
	大規模改修費	363	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	479	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	90	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	453	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	732	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	中部健康福祉センターの本所の一部。1階:児童相談所、身体・知的障害者更生相談所。2階:細菌検査課。
これまでの保全の状況	H24年度:中央児童相談所の移転に伴う改修工事(1階)(H24)、屋上防水補修工事(H25)、外壁他修繕工事(H26)
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面において、当面は行政サービスを提供する責務がある。施設面においては、築35年を超え老朽化が深刻化しているため、随時改修等の手当をする必要があり、第2段階の結果のとおり、改善・維持とすることが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

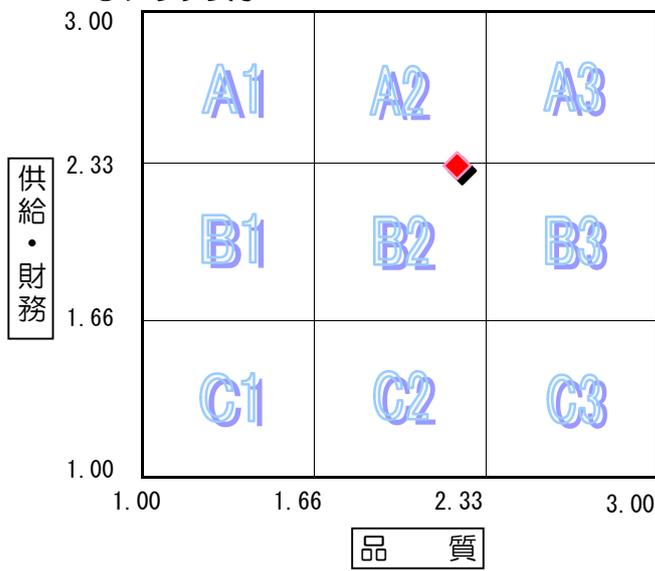
基本情報	施設番号	211119011002	施設名称	西部健康福祉センター掛川支所	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	西部健康福祉センター	
	用途	庁舎等	設置年	1977	
	施設目的	保健所			
	敷地面積	3,170.29 m ²	延床面積	1,948.28 m ²	内部
	土地台帳価格	188,406 千円	建物台帳価格	197,865 千円	
	用途地域	住居地域	路線価	41,600 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: JR掛川駅から バス10分 徒歩1分			

◆ 第1段階 A2 品質 2.30点 供給・財務 2.33点

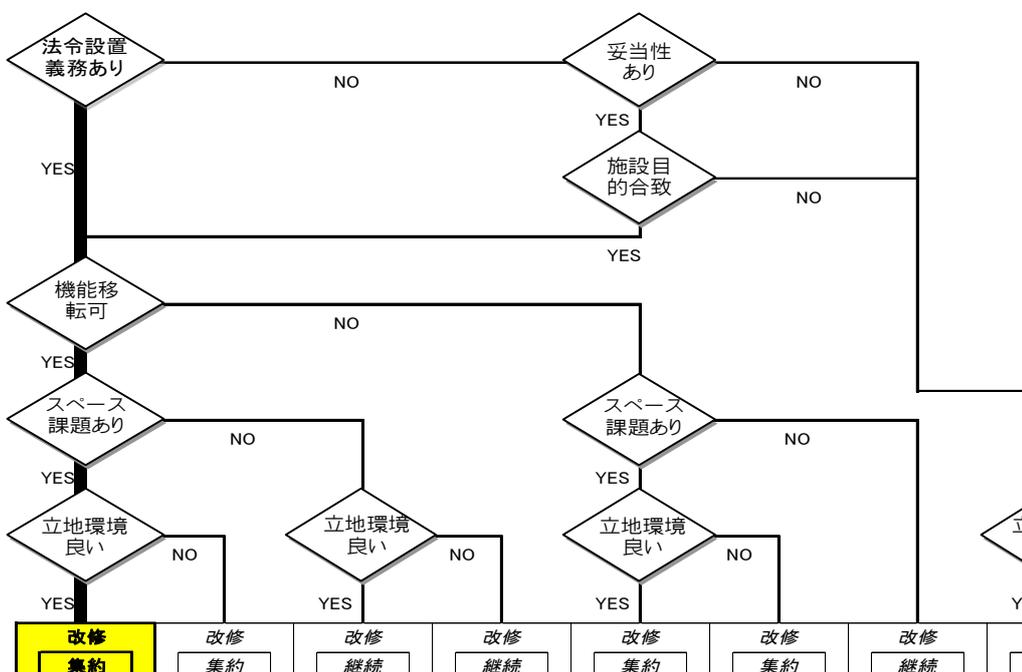
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	39.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2011.0年 3.00点
		外壁	1977.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2015.0年 3.00点
		受変電設備	2012.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.59GJ (49.13)	2.00点
供給	面積/人数	12.06m ² (48.95)	3.00点
財務	コスト/人	222,059円 (45.49)	2.00点
財務	コスト/面積	3,533円 (45.02)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 集約



評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	YES
スペース課題あり	YES
立地環境良い	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	224	百万円	維持管理費 B(※2)	107	百万円
	使用年数 A(※1)	39.0	年	小計	331	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	112	百万円	維持管理費 (※3)	27	百万円
	大規模改修費	451	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	591	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	112	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	564	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	911	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	無(支所・駐在については、行財政改革大綱や行財政改革推進委員会の意見を踏まえ、県行政を取り巻く状況の変化を踏まえ、市町等の連携などの視点に立ち、あり方の見直しについて検討を続けている。)
現在の利用状況	管内東部の住民や事業者が利用し、利用者数に目立った増減は無い。難病申請等の一定時期には、来客用駐車場が混雑することがある。
これまでの保全の状況	本庁舎は築38年経過しており、屋根・外壁・建具等の多くの設備が劣化診断C判定である。2階廊下を中心に雨漏りが発生している。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面において、当面は行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては築38年を経過し、外壁等において劣化が深刻化しているため、改修等の手当てをする必要がある。また、施設2階に余剰スペースがあるため、第2段階の結果のとおり、集約・改修とすることが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **集約**

補足	現行計画(※)に沿って集約・改修を図っていく施設。 ※現地で袋井土木掛川支所を集約
----	--

施設アセスメントシート

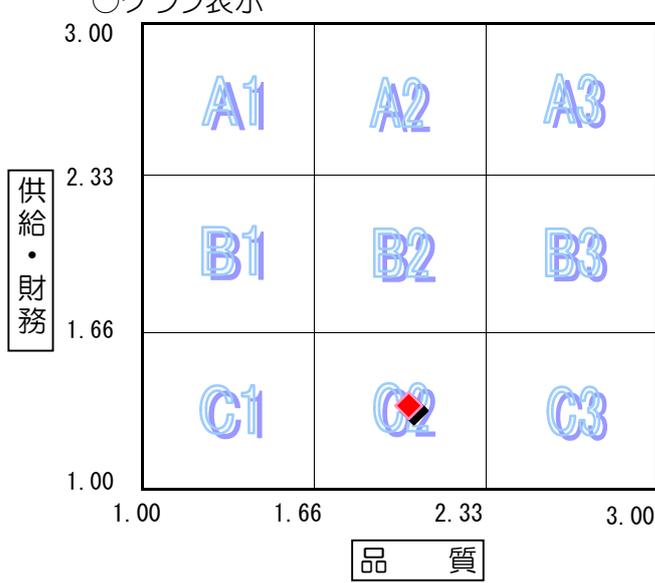
基本情報	施設番号	211119011051	施設名称	西部健康福祉センター浜名分行舎	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	西部健康福祉センター	
	用途	庁舎等	設置年	1976	
	施設目的	保健所			
	敷地面積	3,306.27 m ²	延床面積	1,147.21 m ²	
	土地台帳価格	128,000 千円	建物台帳価格	80,271 千円	
	用途地域	工業地域	路線価	27,100 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:新居町から 徒歩20分			

◆第1段階 **C2** 品質 2.10点 供給・財務 1.33点

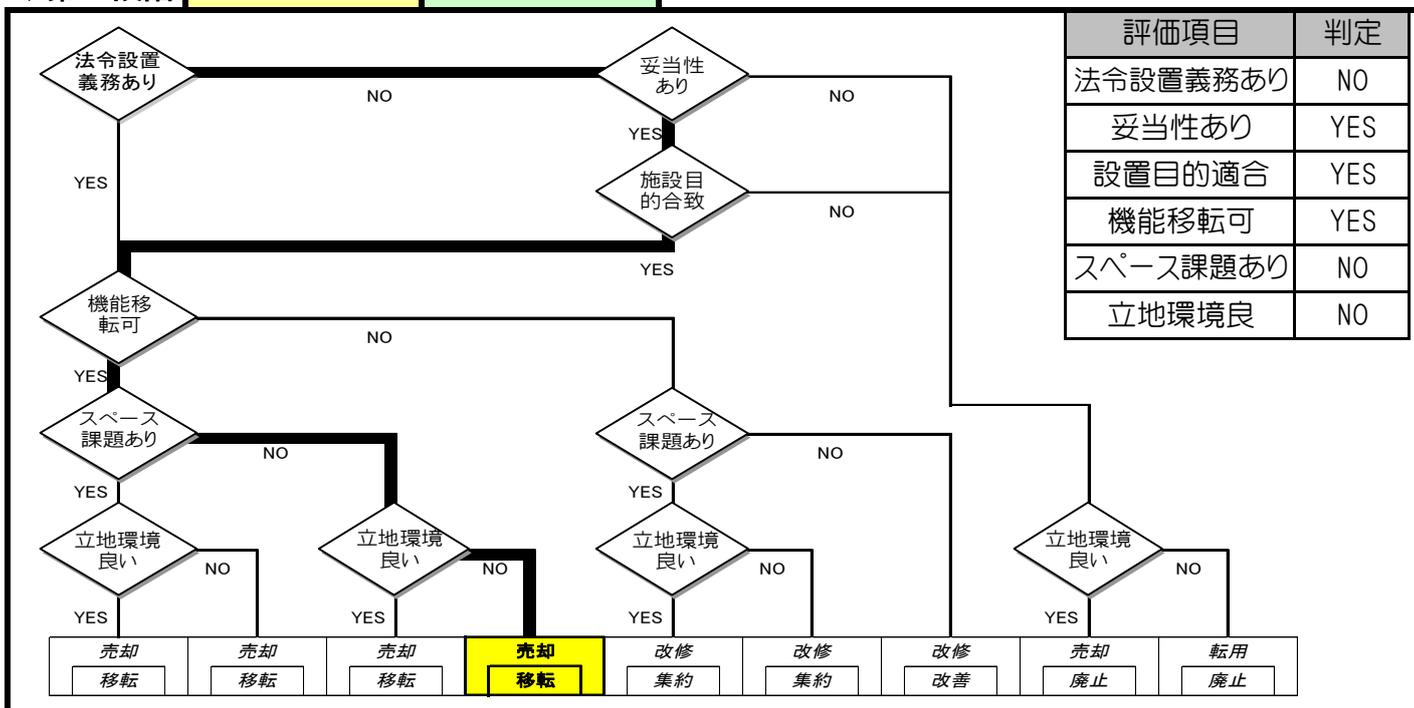
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	40.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2001.0年 2.00点
		外壁	1976.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2000.0年 2.00点
		受変電設備	2012.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.41GJ (54.31)	2.00点
供給	面積/人数	28.50m ² (86.03)	1.00点
財務	コスト/人	826,471円 (56.52)	1.00点
財務	コスト/面積	4,323円 (46.15)	2.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 売却 運用面: 移転



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	172	百万円	維持管理費 B(※2)	78	百万円
	使用年数 A(※1)	40.0	年	小計	250	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	33	百万円	維持管理費 (※3)	20	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	53	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	66	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	332	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	536	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	無(支所・駐在については、行財政改革大綱や行財政改革推進委員会の意見を踏まえ、県行政を取り巻く状況の変化を踏まえ、市町等の連携などの視点に立ち、あり方の見直しについて検討を続けている。)
現在の利用状況	管内西部の住民や事業者が利用し、利用者数に目立った増減は無く、特に混雑は見られない。
これまでの保全の状況	本庁舎は築39年経過し、劣化診断でほぼ全ての項目がB判定以下である。屋根・外壁・床・内壁・天井の劣化(C判定)が深刻で、降雨翌日には毎回庁舎内の至る所で雨漏りが発生している。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面において、当面は行政サービスを提供する責務がある一方で、施設面においては築39年を経過し、建物の劣化が著しい。しかし、当地域の行政サービスは引き続き維持していく必要があるため、現在の行政サービスの内容を踏まえた上で、検討していくこととする。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **売却**

運用面: **移転**

補足

施設の老朽化が進んでおり、また、津波浸水域に立地することから、移転・売却を検討していく必要がある施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	211123012002	施設名称	東部看護専門学校		外部 
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	東部看護専門学校		
	用途	教育施設		設置年	2005	
	施設目的	専修学校				内部 
	敷地面積	5,224.74 m ²		延床面積	4,253.02 m ²	
	土地台帳価格	535,163 千円		建物台帳価格	576,989 千円	
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:三島駅から バス15分				

◆ 第1段階 B3 品質 2.60点 供給・財務 2.20点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	11.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2005.0年 2.00点
		外壁	2005.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2005.0年 2.00点
		受変電設備	2005.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.28GJ (58.10)	3.00点
供給	面積/人数	15.41m ² (44.25)	2.00点
供給	生徒充足率	86.25%	1.00点
供給	入学試験倍率	1.8倍	3.00点
財務	コスト/人	256,607円 (46.12)	2.00点
財務	コスト/面積	1,870円 (42.64)	3.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 改善

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良い	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	739	百万円	維持管理費 B(※2)	39	百万円
	使用年数 A(※1)	11.0	年	小計	778	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	137	百万円	維持管理費 (※3)	36	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	172	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	137	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	920	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,532	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	助産師養成課程の新設も含め、県立の看護師等養成施設として、運営していく方針。
現在の利用状況	年間を通じ300名程度の生徒が使用。
これまでの保全の状況	屋上防水が劣化(C判定)している。現時点で雨漏りは発生していない。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	看護師・助産師等の確保対策における養成力強化対策を担う施設であり、今後も引き続き運営していく。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **改善**

補足

施設の状態は良好であるため引き続き適正に管理していくが、コスト面等の改善を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

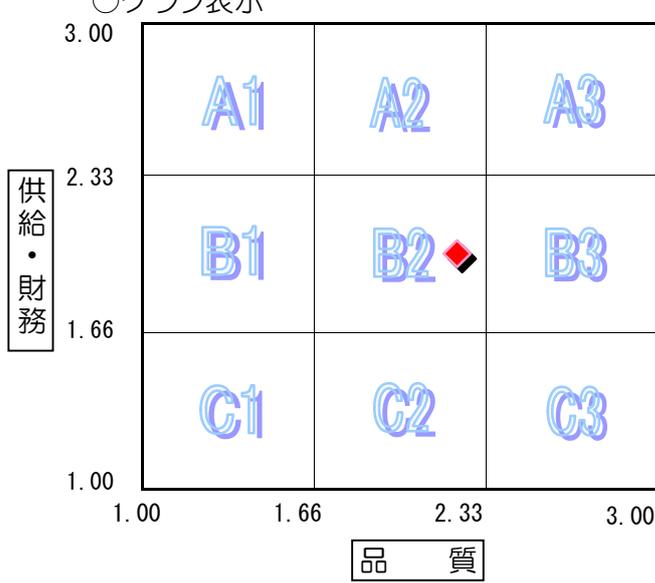
基本情報	施設番号	211700012004	施設名称	総合社会福祉会館		外部 
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	地域福祉課		
	用途	貸館施設		設置年	1983	
	施設目的	社会福祉の増進				内部 
	敷地面積	4,481.04 m ²	延床面積	11,068.07 m ²		
	土地台帳価格	793,855 千円	建物台帳価格	1,343,806 千円		
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:新静岡駅から 徒歩10分				

◆ 第1段階 B2 品質 2.30点 供給・財務 2.00点

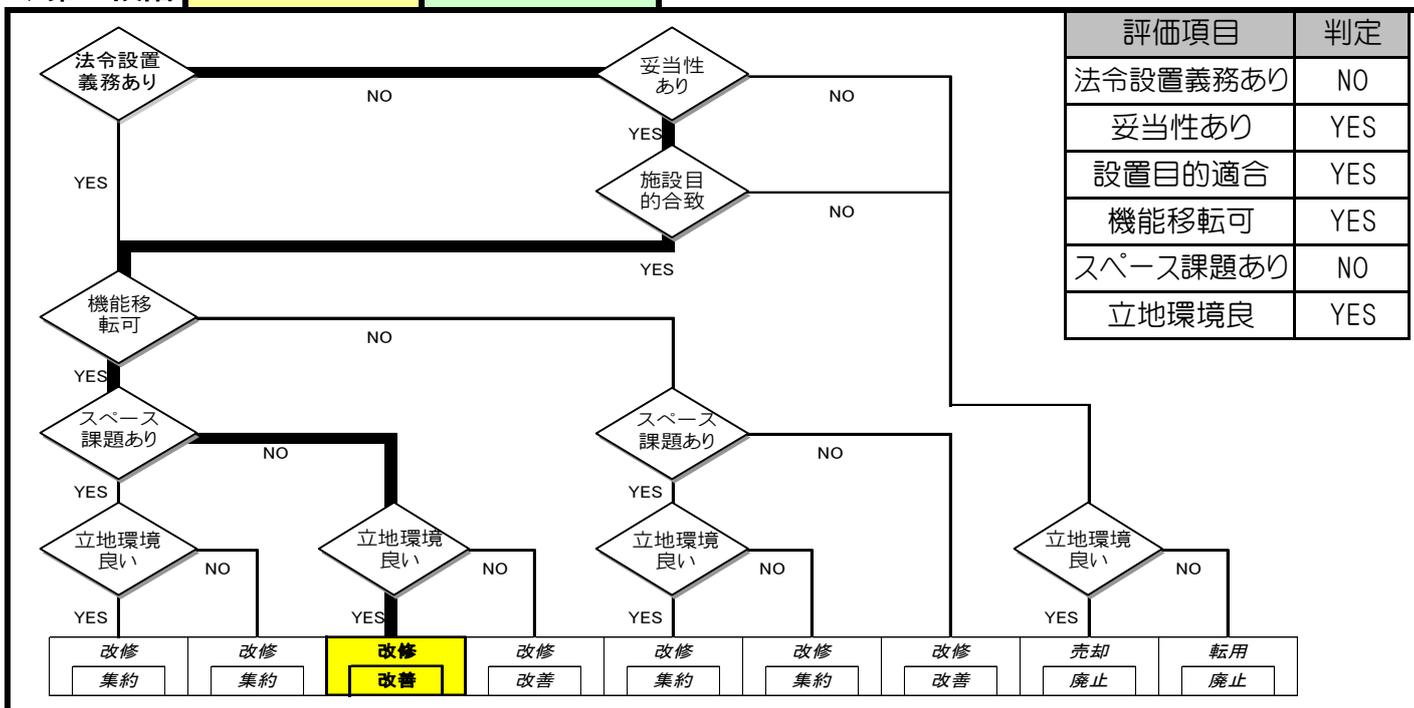
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	33.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2015.0年 3.00点
		外壁	2014.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1983.0年 1.00点
		受変電設備	2013.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.81GJ (52.60)	2.00点
供給	稼働率	46.2%	2.00点
財務	コスト/人	485円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	11,605円 (56.58)	1.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	3,154	百万円	維持管理費 B(※2)	1,768	百万円
	使用年数 A(※1)	33.0	年	小計	4,922	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	319	百万円	維持管理費 (※3)	536	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	855	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	638	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	4,290	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	6,991	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	・福祉団体が入居している団体専用スペースは空きがない状況である。 ・貸会議室については、夜間のコマの利用が低いため、全体で43.6%の利用率となっているが、日中は、60%と高い利用率である。
これまでの保全の状況	・空調機が劣化診断でC判定(順次改修予定:H283基) ・H18・19年度に配置変更やユニバーサルデザイン化など大規模改修(約3億8,000万円) ・H25年度受変電設備(約4,600万円)、H26年度外壁改修(約5,300万円)、H27年度屋上防水改修(約2,800万円)など
その他	無

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	築32年を経過しているが、平成19年度に大規模改修を行った経緯や、本施設は静岡県の福祉の拠点として、各団体の入居や関係会議の開催などの貸会議室を有していることから、第2段階の結果のとおり、改善・改修をしたい。
上を裏付ける根拠(ある場合)	—

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

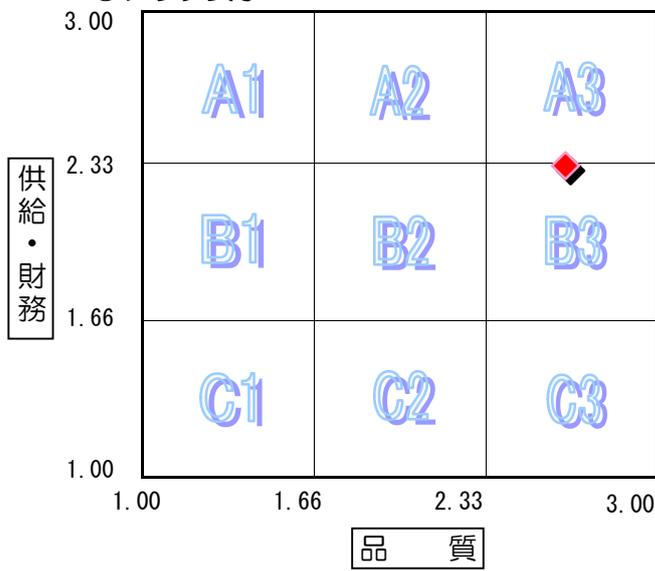
基本情報	施設番号	213500012001	施設名称	総合健康センター		外部 
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	健康増進課		
	用途	集客施設		設置年	1996	
	施設目的	県民の健康づくりを積極的に推進するため				内部 
	敷地面積	17,150.00 m ²		延床面積	4,857.00 m ²	
	土地台帳価格	0 千円		建物台帳価格	1,222,593 千円	
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:三島駅から バス30分				

◆第1段階 A3 品質 2.75点 供給・財務 2.33点

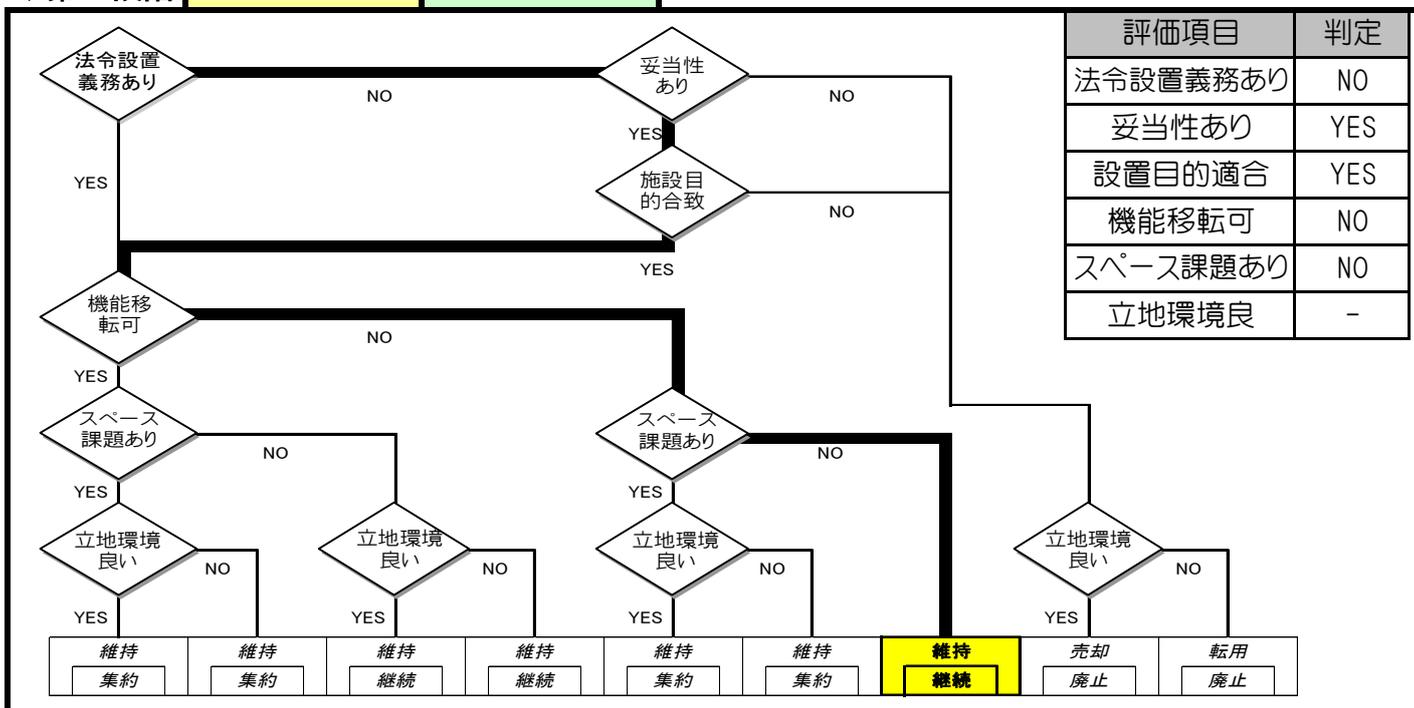
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	20.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2009.0年 3.00点
		外壁	1996.0年 2.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2014.0年 3.00点
		受変電設備	1996.0年 2.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.60GJ (54.74)	2.00点
供給	稼働率	56.4%	2.00点
財務	コスト/人	302円 (41.45)	3.00点
財務	コスト/面積	6,309円 (48.99)	2.00点

○グラフ表示



◆第2段階 施設面: 維持 運用面: 継続



◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,891	百万円	維持管理費 B(※2)	405	百万円
	使用年数 A(※1)	20.0	年	小計	2,296	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	280	百万円	維持管理費 (※3)	203	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	482	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	280	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	2,017	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	3,291	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	H18年度から指定管理者制度を導入し、現在4期目の指定管理期間中(H27～H31年度の5年間)。3期目(H24～H26年度)からは公募により指定管理者を選定。
現在の利用状況	主な機能のうち、調査研究、指導者養成・研修を県職員が実施し、情報収集・提供、普及啓発は指定管理者が実施。調査研究(健診データ分析による見える化等)などの取り組みは全国で高い評価を受けている。 貸館部分の利用率は施設全体で58.4%(H27年度)と、増加傾向(H23年度43.2%)。
これまでの保全の状況	27年度劣化診断でC判定:中央監視装置、受電設備、吸収式冷温水発生器、金属屋根のシーリング他過去の主な修繕:吸収式冷温水発生器オーバ-ホール(H18(2,415千円),H20(2,310千円)に各1台) 他実施予定の修繕:吸収式冷温水発生器オーバ-ホール(H28に1台),ホール吊天井工事(H29)
その他	建物自体は県有施設だが、土地は三島市から無償貸与を受けている。

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	静岡県総合健康センターは、県民の健康づくりを積極的に促進することを目的として設置されたものであり、健康寿命日本一を推進していくためにも、今後も必要な施設と考えている。
上を裏付ける根拠(ある場合)	—

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215101011004	施設名称	中部健康福祉センター一時保護所	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	中部健康福祉センター	
	用途	福祉施設	設置年	2013	
	施設目的	緊急に保護を要する児童を一時保護する施設			内部
	敷地面積	2,139.37 m ²	延床面積	797.49 m ²	
	土地台帳価格	50,275 千円	建物台帳価格	169,858 千円	
	用途地域	産台帳では空欄になっていま	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:-から --			

◆ 第1段階 A3 品質 2.95点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	3.0年	3.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	2013.0年 3.00点
		外壁	2013.0年 3.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2013.0年 3.00点
		受変電設備	2013.0年 3.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.91GJ (51.62)	2.00点
供給	入居率	100.0%	3.00点
財務	コスト/人	292,603円 (46.78)	2.00点
財務	コスト/面積	4,403円 (46.27)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 維持 運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	175	百万円	維持管理費 B(※2)	2	百万円
	使用年数 A(※1)	3.0	年	小計	177	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	46	百万円	維持管理費 (※3)	6	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	52	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	46	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	243	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	393	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	緊急に保護を要する児童を一時保護しているため、365日24時間常に利用されている。
これまでの保全の状況	H25年に設置された施設であることから、大規模な保全はなし。壁の補修等小規模な修繕を実施している。また、形状的に雨水が入り込みやすい構造となっているため、雨漏りが発生し、その都度、調整作業を実施している。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	継続。児童福祉法において、児童相談所は必要に応じて児童を一時保護する施設を設けなければならないとされている。被虐待児や要保護児童などを日中・夜間なく一時保護するためには一時保護所を設ける必要がある。
上を裏付ける根拠(ある場合)	児童福祉法第12条の4

□総合評価

施設面: **維持**

運用面: **継続**

補足

施設の状態及び利用状況も良好であるため、引き続き適正に管理していく施設。

施設アセスメントシート

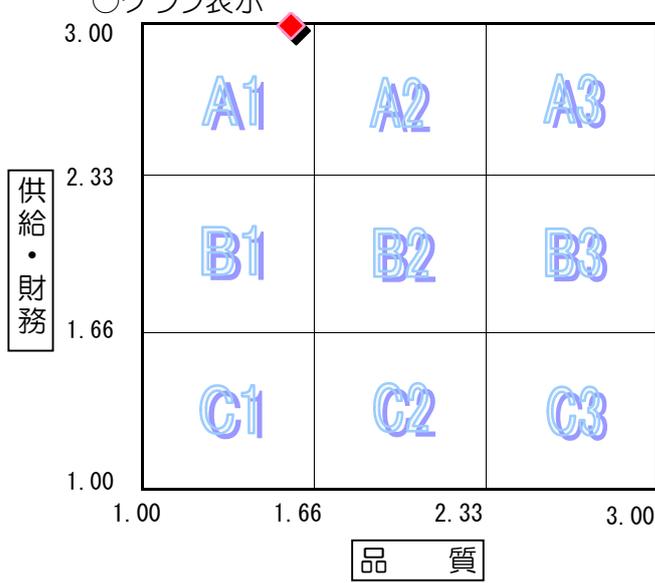
基本情報	施設番号	215102011002	施設名称	旧こども家庭相談センター一時保護所	外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	女性相談センター	
	用途	福祉施設	設置年	1986	
	施設目的	児童保護(児童相談所の移転により現在未利用)			
	敷地面積	485.18 m ²	延床面積	436.05 m ²	
	土地台帳価格	73,470 千円	建物台帳価格	55,882 千円	
	用途地域	住居地域	路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅:東静岡駅から 徒歩20分 タクシー5分			

◆ 第1段階 **A1** 品質 1.61点 供給・財務 3.00点

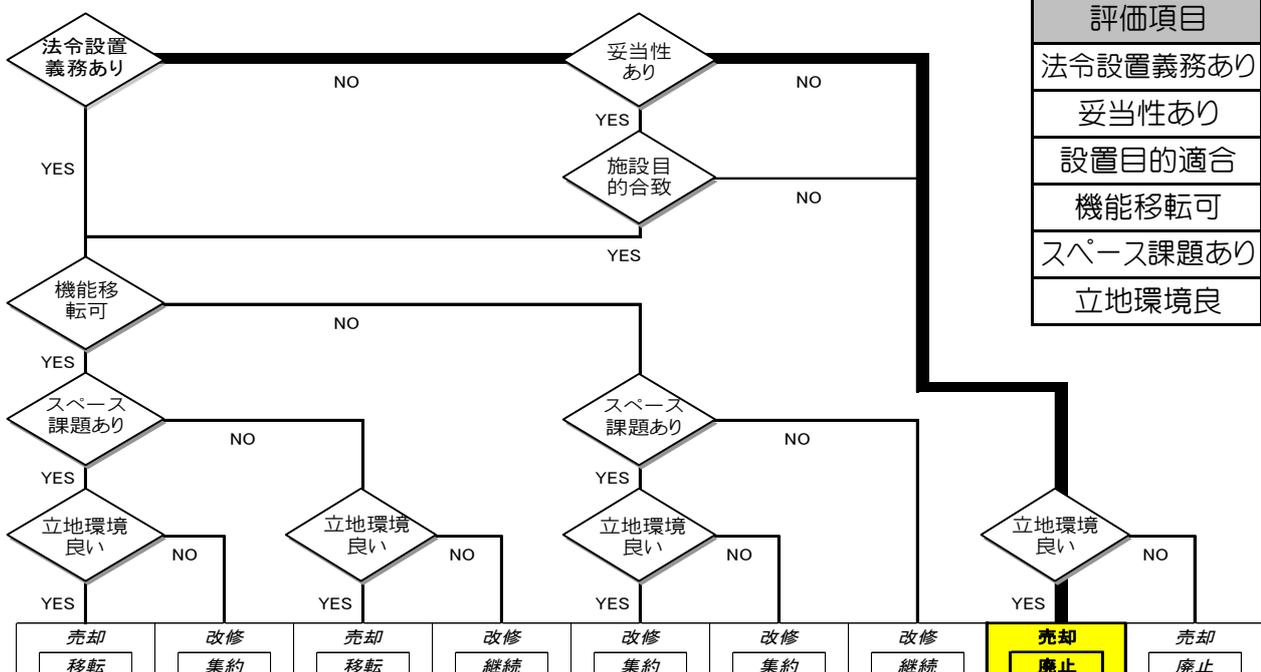
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	30.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1986.0年 1.00点
		外壁	1986.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1986.0年 1.00点
		受変電設備	1986.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 -
品質	エネルギー/面積	-	-
供給	入居率	-	-
財務	コスト/人	-	-
財務	コスト/面積	116円 (40.13)	3.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 **施設面: 売却** **運用面: 廃止**



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	NO
設置目的適合	-
機能移転可	-
スペース課題あり	-
立地環境良	YES

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	89	百万円	維持管理費 B(※2)	2	百万円
	使用年数 A(※1)	30.0	年	小計	91	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	13	百万円	維持管理費 (※3)	1	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	13	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	25	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	133	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	215	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	平成25年4月に中央児童相談所及び同一時保護所の藤枝市内への移転に以降、未利用になっている。
これまでの保全の状況	平成27年11月に法定定期点検実施。 ※屋上に防水保護コンクリートのひび割れ、伸縮目地材劣化等の指摘があり。
その他	平成17年4月に静岡市が政令市に移行し、静岡市児童相談所開設。 (静岡市域が中央児童相談所の管轄外となったため、中央児童相談所等は藤枝市内に移転。)

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	現在施設は未利用であり、老朽化も進んでいる。第2段階では廃止・売却とされたが、周辺に教育機関や福祉・医療施設が集まっている区域であり、跡地利用について多角的な検討が必要なため、引き続き検討していく。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **売却**

運用面: **廃止**

補足

機能は廃止されているため、多角的な活用方法を検討していく施設。

施設アセスメントシート

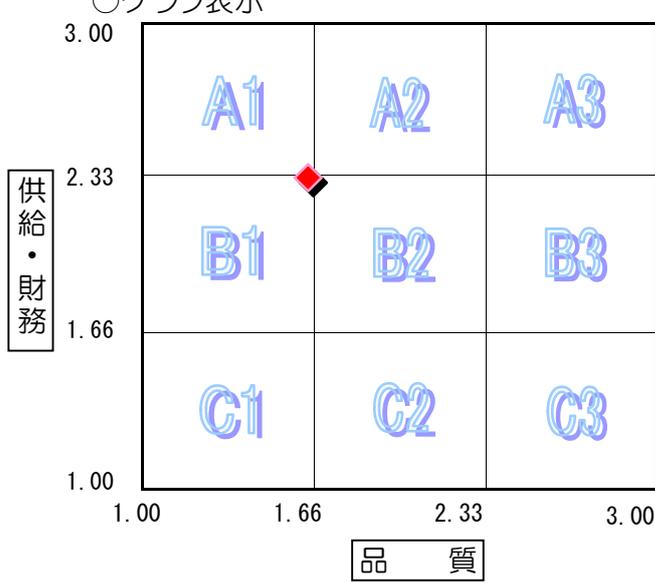
基本情報	施設番号	215105012001	施設名称	吉原林間学園		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	吉原林間学園		
	用途	福祉施設		設置年	1982	
	施設目的	情緒障害児短期治療施設				
	敷地面積	0.00 m ²	延床面積	3,250.29 m ²		内部
	土地台帳価格	0 千円	建物台帳価格	275,186 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR富士駅から バス25分 徒歩10分				

◆ 第1段階 A2 品質 1.68点 供給・財務 2.33点

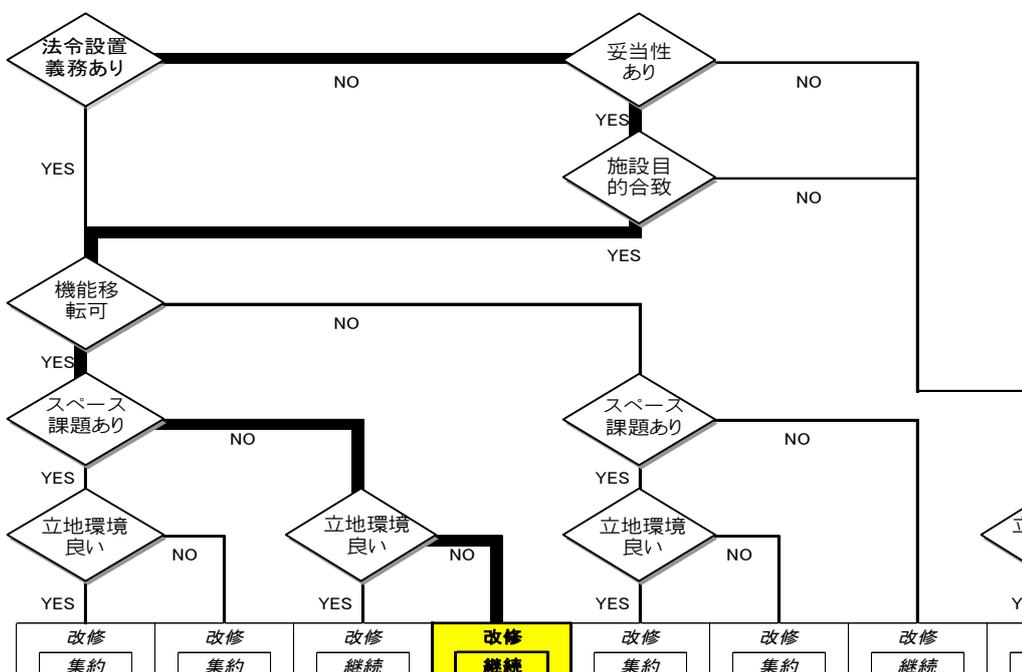
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	32.7年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1983.3年 1.00点
		外壁	1983.3年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	1982.2年 0.82点
		受変電設備	1983.3年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.00GJ (50.70)	2.00点
供給	入居率	80.0%	3.00点
財務	コスト/人	360,077円 (48.01)	2.00点
財務	コスト/面積	4,431円 (46.31)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	YES
スペース課題あり	NO
立地環境良	NO

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	581	百万円	維持管理費 B(※2)	120	百万円
	使用年数 A(※1)	32.7	年	小計	701	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	187	百万円	維持管理費 (※3)	37	百万円
	大規模改修費	657	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	881	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	187	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	989	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,601	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	富士市厚原地内に移転改築予定 (吉原林間学園改築整備事業費H28当初予算154,000千円)
現在の利用状況	定員は50人だが、個室の不足により、現在は概ね40人を限度に入所を受け入れている。平成27年度の平均在籍児童数は40人。※土地は借地
これまでの保全の状況	平成25年度に劣化診断を受けた際、建物外部の塗装のクラックや、雨漏り、工作物の錆等、22項目でC判定を受けている。指摘事項以外にも経年劣化による空調機等機器の性能の低下も一段と進んでおり、出先機関維持補修工事等で対応している。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	築30年を超え老朽化が進行しており、施設構造も現在の入所児童に合わなくなっている。富士市内に移転先を確保したことから、既存施設については解体し、新施設へ移転する。
上を裏付ける根拠(ある場合)	個別方針として平成30年度に移転し、現施設は平成31年度に解体処分とする予定

□総合評価

施設面: 処分

運用面: 移転

補足	現行計画(移転建て替え)に沿って、移転・処分を図っていく施設 ※土地が借地であるため、施設面の分類は「処分」とする。
----	---

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215107012001	施設名称	三方原学園		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	三方原学園		
	用途	福祉施設		設置年	2009	
	施設目的	児童に指導を行い、心身の健全な育成・発達を図り、自立を支援すること。				内部
	敷地面積	96,970.38 m ²		延床面積	5,353.71 m ²	
	土地台帳価格	2,797,179 千円		建物台帳価格	812,079 千円	
	用途地域	指定なし		路線価	- 円/m ²	
	交通アクセス	最寄り駅: 上島駅から 徒歩30分 徒歩30分				

◆ 第1段階 A2 品質 2.30点 供給・財務 2.33点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	20.0年	2.46点
品質	建築劣化度	屋上防水	1999.6年 1.26点
		外壁	1996.0年 2.29点
品質	設備劣化度	空気調和設備	- -
		受変電設備	2009.0年 2.10点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	0.66GJ (54.09)	2.00点
供給	入居率	60.0%	2.00点
財務	コスト/人	224,742円 (45.54)	2.00点
財務	コスト/面積	2,015円 (42.85)	3.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続

評価項目	判定
法令設置義務あり	YES
妥当性あり	-
設置目的適合	-
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	963	百万円	維持管理費 B(※2)	43	百万円
	使用年数 A(※1)	20.0	年	小計	1,006	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	309	百万円	維持管理費 (※3)	22	百万円
	大規模改修費	170	百万円	建替え経費	452	百万円
	解体費	26	百万円	小計	979	百万円

※3 $B \div A \times 10$ 年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	309	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,629	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,637	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	—
現在の利用状況	児童相談所や少年鑑別所等を通じて、不良行為をなし、又はなすおそれのある児童が毎年度20名から30名程度入園し、個々の児童の状況に応じた必要な指導や自立に向けた支援を受けている。
これまでの保全の状況	平成17、18年度:寮舎改築、平成20年度:体育館耐震補強工事 平成20、21年度:本館改築
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	家庭環境等の理由により児童及びその保護者等に対して支援を実施する必要がある一方で、施設の一部において老朽化が進んでいるので、維持補修を実施する必要がある。第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当。
上を裏付ける根拠(ある場合)	児童福祉法施行令第36条(児童自立支援施設の設置) 都道府県は法第35条2項の規定により、児童自立支援施設を設置しなければならない。

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、計画的な保全を適切に実施していくべき施設。

施設アセスメントシート

基本情報	施設番号	215109012001	施設名称	富士見学園		外部
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	障害者政策課(旧富士見学園)		
	用途	福祉施設	設置年	1989		
	施設目的	施設入所支援を行うとともに、生活介護、自立訓練等を行うこと。				内部
	敷地面積	27,506.37 m ²	延床面積	4,274.54 m ²		
	土地台帳価格	671,941 千円	建物台帳価格	356,285 千円		
	用途地域	指定なし	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅:富士駅から バス51分				

◆ 第1段階 B2 品質 2.33点 供給・財務 2.00点

○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	24.4年	2.13点
品質	建築劣化度	屋上防水	2005.8年 2.76点
		外壁	2005.8年 2.76点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2011.9年 2.91点
		受変電設備	1991.6年 1.26点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.16GJ (49.02)	2.00点
供給	入居率	107.5%	3.00点
財務	コスト/人	920,023円 (58.23)	1.00点
財務	コスト/面積	6,027円 (48.59)	2.00点

○グラフ表示

◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 改善

評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	591	百万円	維持管理費 B(※2)	202	百万円
	使用年数 A(※1)	24.4	年	小計	793	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	246	百万円	維持管理費 (※3)	83	百万円
	大規模改修費	0	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	329	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	246	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,300	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	2,106	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成21年度より10年間の期間で指定管理者制度を導入している。平成30年度の指定管理期間終了後の施設の運営形態・あり方を検討している。
現在の利用状況	サービス指定定員40人(生活介護34人、自立訓練6人)に対して平成27年度は43人が入所しており、知的障害者の生活面の介護や生活能力の向上の支援を行っており、県立施設としての役割を果たしている。
これまでの保全の状況	平成元年の改築以来、大規模な改修工事は行われておらず、施設の劣化状況に応じて修繕工事等で対処しているものの、利用者の破壊行為等もあり、施設の老朽化・損傷が進行している。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	第2段階の結果のとおり改善・改修とするのが妥当であるが、知的障害者の支援施設として、指定管理期間終了(H31)後については、検討を行う予定。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **改善**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めるとともに、コスト面の改善等を図る必要がある施設。

施設アセスメントシート

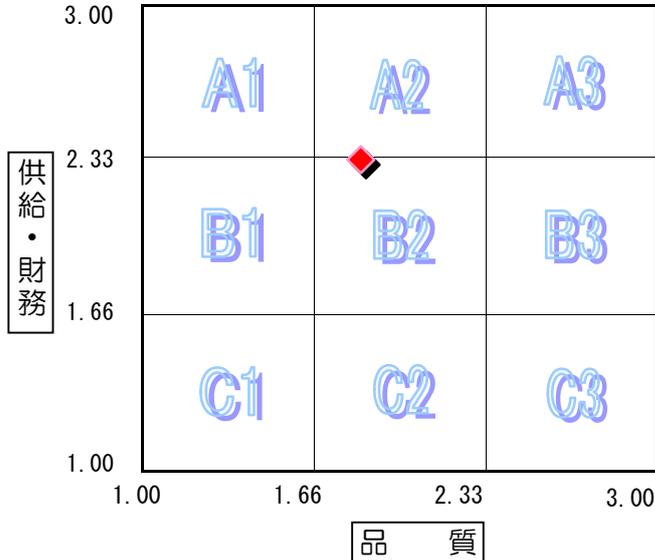
基本情報	施設番号	215111012001	施設名称	磐田学園		外部 
	財産管理者	健康福祉部	財産事務取扱者	磐田学園		
	用途	福祉施設		設置年	1980	
	施設目的	福祉型障害児入所施設				内部 
	敷地面積	15,659.72 m ²	延床面積	3,357.15 m ²		
	土地台帳価格	932,872 千円	建物台帳価格	305,239 千円		
	用途地域	第2種住居専用地域	路線価	- 円/m ²		
	交通アクセス	最寄り駅: JR磐田から バス15分 徒歩5分				

◆ 第1段階 A2 品質 1.90点 供給・財務 2.33点

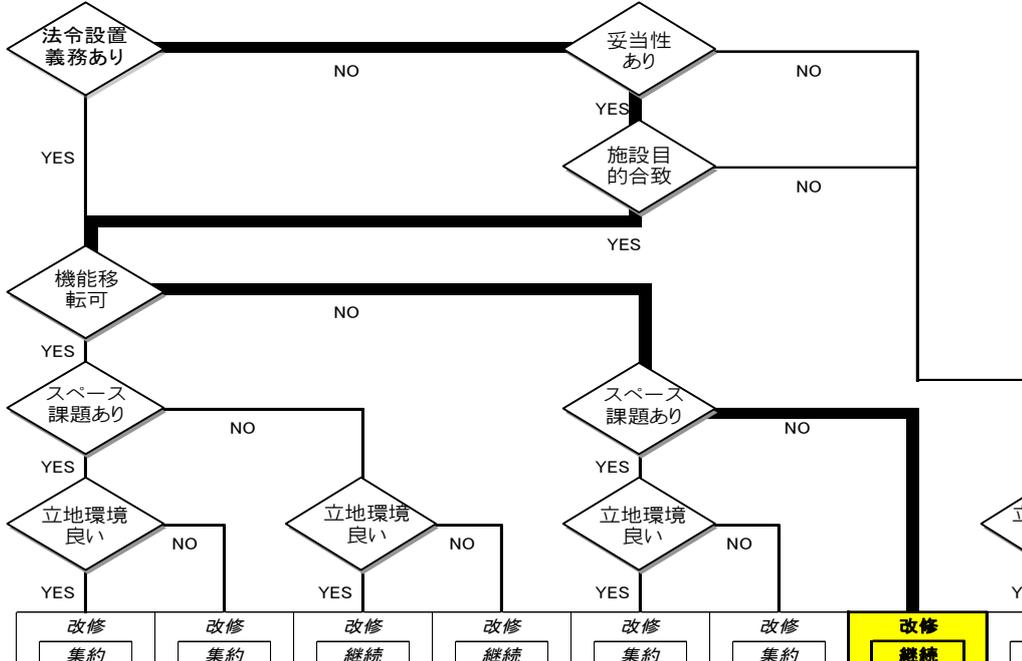
○主な内訳 (括弧内は偏差値)

品質	建築後経過年数	36.0年	2.00点
品質	建築劣化度	屋上防水	1980.0年 1.00点
		外壁	1980.0年 1.00点
品質	設備劣化度	空気調和設備	2011.0年 3.00点
		受変電設備	1980.0年 1.00点
品質	津波性能	3.00点	耐震性能 3.00点
品質	エネルギー/面積	1.20GJ (48.63)	2.00点
供給	入居率	178.6%	3.00点
財務	コスト/人	637,541円 (53.07)	2.00点
財務	コスト/面積	7,596円 (50.84)	2.00点

○グラフ表示



◆ 第2段階 施設面: 改修 運用面: 継続



評価項目	判定
法令設置義務あり	NO
妥当性あり	YES
設置目的適合	YES
機能移転可	NO
スペース課題あり	NO
立地環境良	-

◆第3段階

□コスト推計

主な投資コスト (建設時から現在まで)	建設費	1,143	百万円	維持管理費 B(※2)	155	百万円
	使用年数 A(※1)	36.0	年	小計	1,298	百万円

※1 複数棟ある場合はその平均(面積加重)

※2 過去3カ年の実績から算出した1年平均の額 × 使用年数(A)

将来コスト試算 (今後10年間)	保全費	193	百万円	維持管理費 (※3)	43	百万円
	大規模改修費	828	百万円	建替え経費	0	百万円
	解体費	0	百万円	小計	1,064	百万円

※3 B ÷ A × 10年

パターン別コスト試算の比較 (維持管理費を除く)	計画保全パターン	193	百万円	今後10年間、計画保全で長寿命化を図っていく。
	大規模改修パターン	1,021	百万円	今後10年以内に大規模改修を実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。
	建替えパターン	1,654	百万円	今後10年以内に解体・建替えを実施し、計画保全で長寿命化を図っていく。

□施設の状況(特殊事情)

個別方針・計画、プロジェクトの有無	平成28年度外部の有識者を招いて、あり方検討会を実施、個別方針を策定した。平成29年度から平成32年度の4年間で改築事業を実施する予定である。なお新施設の供用開始は平成32年4月の予定。
現在の利用状況	被虐待児の増加により、常時50名前後の入所児があり、家庭の問題から、平日、休日を問わず、24時間365日利用されている状況である。
これまでの保全の状況	期待耐用年数を大幅に超えており、屋根・外壁・建具(窓)・受変電設備等が劣化し、C判定を受けている。また、給排水配管も劣化が予想され、業者からは早期に改修が必要との報告を受けている。磐田学園は居室構造が大舎制という古い構造であり、将来的に改築する可能性があることから、これまで大きな改修を見送っている。
その他	

□財産管理担当の考え方

廃止・継続の理由	運用面においては、今後も継続的に障害児入所支援の提供体制を維持する責務があり、施設面においては、築35年を越え、老朽化が激しく、また構造的にも陳腐化が著しい現状である。そうした現状からは、第2段階の結果のとおり、継続・改修とするのが妥当である。
上を裏付ける根拠(ある場合)	

□総合評価

施設面: **改修**

運用面: **継続**

補足

施設の不具合箇所の解消に努めつつ、中期的には建替えも含めた改修を検討していく必要がある施設